



 **プログラム・キャリア紹介**
後期研修プログラム部門

PG-01 北海道勤医協総合医・家庭医後期研修プログラム

- I 病棟・救急・外来・在宅あらゆるフィールドに強い家庭医・総合医を育てます。
- II 基幹病院・中規模病院・診療所の3つのフィールドで研修します。
- ① 基幹病院 勤医協中央病院（札幌市東区）
 - a) 後期研修1年目に、ジェネラリスト研修に理想的な総合診療病棟や救急外来で、総合内科の基礎をつくり上げます。
 - b) 指導医：臺野 巧、川口篤也、松浦武志
 - ② 中規模病院 勤医協札幌病院（札幌市東区）
 - a) 亜急性期から慢性期の管理、訪問診療、外来診療などを通して、地域連携・リハビリテーションを学びます。
 - b) 指導医：尾形和泰、佐藤健太
 - ③ 診療所 月寒ファミリークリニック（札幌市豊平区） 余市診療所（余市郡余市町）
 - a) 家庭医療・地域医療の実践および教育診療所として後期研修をサポートします。
 - b) 指導医：泉 京子、塩原康弘、瀬野尾智哉
- III 北海道民医連の他のプログラムと協力して研修医を育てます。
青函圏・函館家庭医療研修プログラム、道北勤医協家庭医療後期研修プログラム、釧路協立病院家庭医養成プログラム
- IV 経験を学びへと繋げる研修システム、研修医評価・フィードバック
- ① 後期研修医の学びの場「二木会」
 - a) 月1回（第4土曜日午前）後期研修医・指導医が集まる学習会
 - b) Significant Event Analysis（SEA）、Clinical Jazz、ワークショップ形式の学習会
 - ② 評価・フィードバック
 - a) ポートフォリオ評価と360度評価

♣女性医師が働きやすいような工夫／産休、育休、時短勤務などの制度があり、実際に後期研修医が利用している。子育てしながら後期研修を行っている女性医師の意見を参考に、ゆったりしつかり後期研修プログラム～「彩～いろどり」を開発中。

◎連絡先／勤医協中央病院 〒007-8505 北海道札幌市東区東苗穂5条1丁目9番1号
TEL：011-782-9111 FAX：011-781-0680 E-mail：kawamura miho@gmail.com
担当者：川村 美保（かわむらみほ、後期研修担当事務）

PG-02 手稲家庭医療クリニック 後期研修プログラム

臨床力 『見た』ことがあるから、『診た』ことがあるへ

■当院の特徴

①多様性

- ・乳児から高齢者まで、都市から地方まで、外来から在宅まで
- ・内科・産婦人科・小児科から皮膚科・整形外科・精神科・緩和ケアまで
- ・様々な経歴を持つ指導医、フェロー、研修医が総勢17名

②専門性

- ・アメリカで家庭医療を修めた指導医
- ・併設の緩和ケア病棟での研修
- ・手稲溪仁会病院での専門科研修

③継続性

- ・3年間でフォローする外来患者や在宅患者は200人以上
- ・出生前から終末期まで診療
- ・外来、訪問診療、緩和ケア、急性期入院のすべてが完結できる場所

『敷居は低く、懐は深く』をモットーにみなさんをお待ちしています！！

詳しくは web へ <http://www.keijinkai.com/teine-karinpa/>

◎連絡先／医療法人 溪仁会 手稲家庭医療クリニック 〒006-0812 北海道札幌市手稲区前田2条10丁目1-10
TEL：011-685-3921 FAX：011-685-3921 E-mail：“熊谷雅代” kumagaikarinpa@gmail.com
担当者：星 哲哉

PG-03 北海道家庭医療学センター 家庭医療学専門医コース

『都市部・郡部に関わらず地域の第一線で活躍する家庭医』を目指す3年間のプログラムです。研修終了後、日本プライマリ・ケア連合学会の家庭医療専門医認定審査の受験資格が得られます。

【研修の場】

下記から成り立ちます。これは、日本プライマリ・ケア連合学会の定める新たな後期研修プログラム（Ver2）に準拠しています。

①診療所研修

北海道の都市部・郡部双方の診療所における計1年半の研修です（都市部・郡部を各6ヵ月または1年）。

家庭医としての成長のコアとなる継続性と多様性のバランスを重視した研修内容となっています。

家庭医に必須の医学的知識・技術はもちろんのこと、家庭医療の基盤の知識・技術を、指導医と共に経験を振り返りながら習得出来ます。

②病棟研修

北海道内でも有数の研修病院における計1年半の研修です（内科12か月・救急3ヶ月・小児科3ヶ月）。

家庭医に理解ある指導医のもと、家庭医に必要な各科の知識・技術を習得できます。

病棟研修中も、週に半日は当センターの都市部診療所にて家庭医療研修を受けられます。

【学びのサポート】

① On-line FaMReF（毎週～隔週）

上記の診療所・病棟研修を通じて行われる、当センターの指導医（家庭医療専門医）によるTV会議システムを用いた勉強会です。

家庭医療のコアな知識の土台作りを行います。学会の専門医試験の課題であるポートフォリオも作成支援しています。

② On-site FaMReF（年3～4回）

各地で研修している後期研修医が、都市部または郡部診療所に集まって行う勉強会です。

各々の研修医の学びを共有しディスカッションを行い、研修医全体で成長する場となっています。

③評価とフィードバック（毎月）

当センター自身の研修目標を明確に定めており、それに到達するための細やかなフィードバックを指導医から受けられます。

【関心のある方へ】

HP (<http://www.hcfm.jp/>) に詳細な情報が記載されていますので、是非ご覧ください。見学・研修についても随時受け付けております。

♣女性医師が働きやすい工夫／

①組織待遇；正職員からパートまで柔軟に対応あり（診療業務から組織業務まで参加の程度を個別に相談可）

②診療体制；訪問・外来診療含め完全なグループ診療であり、出産・育児の段階に応じて短縮勤務からフルタイムへの緩徐な移行や待機免除、子供の発熱時の業務交代などの柔軟な対応と、家庭医としての医師患者関係の継続性の維持の両立も期待できます。

③過去の実績；動画 (<http://www.hcfm.jp/education/movie.html>) をご覧ください。

●連絡先／医療法人北海道家庭医療学センター事務局 遠藤

〒007-0841 札幌市東区北41条東15丁目1-18 TEL：011-374-1780 FAX：011-722-9387 E-mail: info@hcfm.jp

PG-04 青函圏・函館家庭医療研修プログラム

道南・函館の地理的特性を活かし、北海道と北東北の架け橋を担ってジェネラリストを育成する願いをこめてプログラム名に青函圏を冠しました。道南地域は、北海道の中でも歴史的に医療機関同士の医療連携が強い地域です。函館稜北病院は、道南で学ぶ研修医同士の交流連携をすすめる企画をすすめてきました。当プログラム運営にあたっている函館稜北病院は、一般急性期病床、地域包括ケア支援病床、回復期リハビリ病棟で構成されており。総合診療医の力量を存分に発揮できるフィールドです。プログラムは札幌市を中心とした北海道勤医協 GPMEC での研修、函館中央病院 NICU、小児科研修、おしま病院ホスピス研修。弘前市健生病院 ER 研修、函館脳神経外科病院脳神経外科研修。檜山郡江差町江差診療所研修を軸に構成されています。函館稜北病院は、日本リハビリ医学学会認定施設としてリハビリ医師の養成も行っており、家庭医療専門医取得後のリハビリフェローシッププログラムも運営しています。190名を超える24時間在宅支援患者を管理しており、在宅医療学会認定フェローシッププログラムを運営しています。

法人外の介護系施設との交流が強く地域包括ケアの中核として期待されている総合診療医のすぐれた研修環境を有しています。

VER. 2プログラムでは、上記に加え函館市の急性期 DPC 中核病院である市立函館病院での内科、ER 研修。町立松前病院研修、そして臨床研究能力を高めるため札幌医大総合診療科との共同リサーチプログラムを構築中です。

松前家庭医養成プログラム、青森民主医療機関連合家庭医療プログラムと当プログラムとの3プログラム共同で道南・青森家庭医療フォーラムを毎年開催して来た実績があります。

江差診療所研修は地元の病院、行政との連携、在宅医療と地域住民との密接な医療介護研修環境での研修環境を獲得することを目標としています。

認定医 指導医 専門医 を取得された先生方を指導医として 招聘いたします。存分に力を発揮できるフィールドです。ご連絡ください

♣女性医師が働きやすいような工夫／女性医師専用休憩室と当直室が設置されています。育児休暇を1年間取得可能です。

男性医師にも妻の出産時の育児休暇制度を設けています。医局担当事務に女性を配置しています。

●連絡先／函館稜北病院 〒041-0853 北海道函館市中道二丁目51番1号

TEL：0138-54-3113 FAX：0138-32-0106 E-mail：sasaki.satoru@gmail.com；ikyo-314@donank.jp

担当者：佐々木 悟；斉藤 美也子

PG-05 福島県立医科大学 家庭医療学専門医コース

「地域に生き、地域で働く」家庭医の育成

平成18年に設立した当プログラムは、地域住民と多職種の人々との協働で成長を続け、平成25年度までに11名の家庭医療専門医を輩出しています。修了者の約半数は当講座のスタッフとなり、本学会認定指導医を取得して熱心に後進の教育に力を注いでおり、年を重ねるごとに指導体制が充実しています。私たちは、福島の人たちと共に地域医療創生への試みを世界へ発信し、そして、わが国のプライマリ・ケアの発展という共通の夢を共有しながら未来へ歩み続けます。



【研修プログラムの特徴】

当専門医コースの研修修了者を配置した診療所研修サイトが県内に5ヶ所あり、家庭医療のトレーニングを受けた指導医のいる現場で家庭医療について学ぶことができます。病院研修の期間は、家庭医療後期研修医の受入実績が豊富な県内各地の地域基幹病院での研修となります。病院研修期間中も、家庭医としての基本を身につけるべく週1回（半日）家庭医療指導医のもとで外来研修を積んでいきます。また、サイトごとの指導だけでなく、全後期研修医が集まる「Family Medicine Resident Forum」を月に1回開催し、他サイト指導医からのフィードバック、後期研修医同士での学びの機会を提供します。海外の家庭医療からも学べるよう、後期研修開始1年目には海外視察の機会を提供し、福島に海外の家庭医を招聘して学ぶ機会も年に数回企画しています。育成実績の豊富な当プログラムで、家庭医に必要な能力を身につけてみませんか？

♣女性医師が働きやすいような工夫／当講座は「学習者中心の医学教育」をモットーに、研修あるいは勤務の内容・場所・勤務体系などを、出産や子育てなど様々な個々の事情に配慮して、個別に相談し決定しています。勤務開始後も定期的に面談して適宜勤務体系の見直しをおこない、より満足のいく研修環境が提供できるように努めています。その結果として、女性医師らが後期研修の継続をあきらめることなく、出産・復職・子育て・専門医取得を実現させています。

◎連絡先／福島県立医科大学 医学部 地域・家庭医療学講座 〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
TEL：024-547-1516 FAX：024-547-1516 E-mail：comfam@fmu.ac.jp
Web サイト：http://www.fmu.ac.jp/home/comfam/ 担当者：菅家 智史

PG-06 青森民医連 総合診療専門医後期研修プログラム

2013年に救急総合診療センターを開設し、救急・集中治療・病院総合診療・診療所医療（家庭医）それぞれの部門が連携して教育を行っています。

後期研修の特徴は以下の通りです。皆様の参加をお待ちしています。

- 救急・集中治療・病院総合診療・診療所医療（家庭医）の各部門が連携
- 研修先として複数の診療所、病院から選択可能
- skypeを利用したカンファレンスと、レジデントデイを中心に、定期的な振り返りと学び
- 地域に根ざした診療所としての豊かな実践と歴史
- 健康増進の活動として医療生協の班会を重視し、そのなかで地域保健医療を学ぶ
- 市街地～農村地までの広範で多様な在宅診療
- 在宅診療で福祉分野も含めたネットワークを総合的に学ぶ
- 一連の継続した診療 《外来・訪問診療⇄入院》
- 診療所の管理運営に他職種の診療所スタッフとともに参加する
- 内科、小児科、整形外科の比較的深い知識と技術の獲得
- 常勤医として採用

青森民医連救急総合診療センター ホームページ <http://www.aomori-cfm.com/>

♣女性医師が働きやすいような工夫／常勤の契約も働き方の希望によって2種類の内容を準備しています。また希望によってはパート契約等も含め、勤務時間や形態について相談可能です。

◎連絡先／健生黒石診療所 〒036-0356 青森県黒石市ちとせ3-6
TEL：0172-53-3015 FAX：0172-53-5179 E-mail：sakato-k@fa3.so-net.ne.jp
担当者：坂戸 慶一郎

PG-07 みちのく家庭医療・総合診療研修プログラム

総合病院から診療所までのスケールメリットを活かす

専門医の受験資格を満たしながら個々の要望にも柔軟に対応。文部科学省の「未来医療研究人材養成拠点形成事業」において東北大学病院と連携し、ITC を利用した臨床研究のサポートや医療マネジメント教育を受けることができ、キャリア形成およびスキルアップも可能です。

☆産休・育休を取得しながら、
家庭医療専門医を取得した実績があります！☆



【年間スケジュール（家庭医療専門医取得コースの例）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	総合診療研修 (坂総合病院)						地域プライマリーケア研修 (長町病院 / 古川民主病院)					
2年	小児科 (坂総合病院)		診療所研修 (しばた協同クリニック / 松島海岸診療所)				救急科研修 (坂総合病院)					
3年	診療所研修 (しばた協同クリニック / 松島海岸診療所)											



♣女性医師が働きやすいような工夫／

☆産休・育休を経て、当プログラムから2013年度、宮城県初の専門医が誕生しました！！☆

・産休、育休明けの女性医師向けに、短時間勤務制度（常勤医扱い）も用意しています。院内保育所を併設しています。

◎連絡先／公益財団法人 宮城厚生協会みちのく総合診療医学センター

こちらからも検索できます⇒

〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5

TEL：022-361-7033（医師・医学生室） FAX：022-365-6555（医局） E-mail：mcp@gzmkk.org

担当者：佐藤 亜紀（医師研修担当事務）



PG-08 本吉病院家庭医療専門医コース（東北大学連携プログラム）

本吉病院では、地域が、人が、元気であるために、医療という枠で自分達をしばらず、地域の皆さんと一緒に活動しています。医療の目的は何でしょう。「病気」「死」を回避するためだけの活動ととらえれば、全ての医療は徒勞となってしまう。不幸を減らすことだけではなく、人生に寄りそい、ああこれでよかったと思える瞬間・幸せを共にすることも医療の目的であると思います。

そのために、医療には「生きる」哲学が必要であり、人と人との関係性をつくるためのコミュニケーションが必要であり、人が生きるまちをつくる視点が必要であると考えます。そして、社会の中でそれぞれの役割を担う全ての人に対する尊敬と情愛の念が必要であると思います。

本吉は震災を乗り越えてこの地にしっかり根を張っている土地の人がいます。震災を契機にこの地に舞い降りた風の人もいます。「震災はあったけれども悪いことばかりではなかったよね」と振り返ることができるよう活動しています。

活動のキーワードは「みんなで一緒に」です。

本吉病院では震災2年目の2013年に家庭医後期研修プログラムを立ち上げました。医療提供体制が崩壊した県内三陸沿岸の被災地医療機関の全てが参加し、地域医療・家庭医療を共に創り上げていくためのプログラムです。また当院は、地元東北大学の地域教育拠点として、大学から専門医療や医療マネジメントに関する専門知識・スキル及びリソースと地域発の臨床研究の指導・サポートの提供を受け、家庭医療の実践のみならず、地域ならではの研究が出来る家庭医の育成を目指しています。

研修開始時には、各研修科目について、家庭医に望まれる知識・技能等の到達目標を明確にし、家庭医の基礎を確実に習得できる研修としました。特に、家庭医としての役割である慢性疾患管理、在宅医療、疾病予防、各種検診、健康診査に重点を置き、当地域の福祉施設、介護施設、行政での活動も組み込んでいます。そして、被災地特有の精神的・身体的諸問題に対応することを通じて、家庭医に求められる精神と身体を分けずに一人の人としての生活や地域を重視する医療を研修・実践できるよう配慮しています。

当プログラムは設立2年目ではありますが、設立初年度となる昨年から研修医が参加してくれました。プログラムとしては駆け出しではありますが、三陸のこの地域で新しい家庭医療を共に創り上げていく熱意のある研修医を求めています。

◎連絡先／気仙沼市立本吉病院 〒988-0382 宮城県気仙沼市本吉町津谷明戸222-2

TEL：0226-42-2621 FAX：0226-42-2625 E-mail：mths-kanri@city.kesenuma.lg.jp 担当者：齊藤 稔哲

PG-09 被災地で家庭医を育てる

当プログラムの中核を担う石巻市立病院開成仮診療所は、一昨年5月に、被災地支援を目的に仮設住宅内に設立されたプレハブの診療所である。またいずれ病院再開時には、縮小ないし閉鎖されていくとともに、新病院の総合診療科の立ち上げにつながっていく取り組みでもある。このような状況下で完成されたものであるとはいいがたいプログラムである。診療所開設の目的の一つが、東北にプライマリケア・家庭医の育成拠点をつくりたいということであったが、昨年春に佐久総合病院時代にプログラム責任者であった所長に加え、新たに家庭医専門医を迎え、指導体制が整備された。被災者支援を目的とするという役割や石巻市が国からモデル指定を受け進めている地域包括ケアシステムの構築を進めていくという活動に関わるなど、今後も刻々と被災地・者の状況の変化により研修環境の変化が生じていくことと考えられるが、このことを総合診療で重視されている「地域を診る」貴重な機会と積極的にとらえ、被災地で被災者支援を行いながら、医療者としての成長を遂げていきたいと考える人を受け入れていきたいと考えている。特徴として

1. 当プログラムの中核をなす、石巻市立病院開成仮診療所が、被災者支援を目的に約2000戸4500人が住む大規模な仮設住宅の真ん中に開設されており、被災者の状況の変化により、診療所自体の感割を変化させていく必要があるという極めて特殊な状況下にある事、
2. 当プログラムが今春より初めて後期研修医（2人の予定）を受け入れる事
3. 2016年8月には石巻市立病院が180床の医療機関として再建される予定だが、その時に病院と診療所の役割をどうするかといったことが、被災地という状況下で、まだはっきりとめどが立っていないこと
4. 東北大学 GP 育成プログラムと連携する

なお、被災地での経験を共有することは、医療者として成長していくうえで非常に有益と考え、150名を超える医学生・研修医などを受け付けてきたが、このような活動にも積極的に関わりたい人物を希望する。

♣女性医師が働きやすいような工夫／最大限配慮します。

◎連絡先／石巻市立病院開成仮診療所 〒986-0301 宮城県石巻市南境字新小堤25-1
TEL : 0225-23-3200 E-mail : junichi.cho@gmail.com 担当者：長 純一

PG-10 篠ノ井総合病院 内科系総合プラス救急プライマリ・ケア後期研修プログラム

本プログラムは総合医研修プログラムとして位置づけられたものであり、総合診療医、家庭医、僻地での診療などを将来像として視野に入れながら、内科系の医師として総合的に力をつけ、また1次、2次救急にも十分対応できるようにしたい研修医向けのプログラムです。

本来は特に総合医を目指したい研修医のためのプログラムですが、総合医としての研修を終えた後に内科系サブスペシャリティーの専門医を、または外科系の専門医を目指したいといった場合にも適しています。

当院は東京から新幹線で2時間以内といった利便性のある、長野市南部の落ち着いた環境にある地域の中核病院で、昭和42年開設当初から患者本位を理念に掲げており、各専門領域でも高度な診療を行っている一方で総合診療、救急に力を入れています。たとえば、毎朝の救急カンファレンスは、短時間ながら研修医対象というよりも全医師対象としており一般医のレベルアップにつながっています。

この澄んだ空気の中、新しい病院（現在建築中の新病棟に病院の7割以上が移転、H27年度から稼働します）で、充実した総合医研修をとおして一流の医師を目指しましょう。

♣女性医師が働きやすいような工夫／産休・育児休暇は勿論のこと、ワークシェアリングも実施しています。又、育児支援については、自宅でのベビーシッターやキッズハウス（院内施設）を設け、ベビーシッターによる預かりを24時間365日体制で実施しています。全額病院負担です。拘束・残業・夜勤と大変な日々ですが、育児支援プログラムは7種類ほどあり、病児・病後児の一時預かりにも対応します。現在、当院には9名の女性医師が勤務しています。信州は教育県でもあり、お子さんの教育にもいい環境が望めます。

◎連絡先／JA 長野厚生連篠ノ井総合病院 〒388-8004 長野県長野市篠ノ井会666-1
TEL : 026-292-2261 FAX : 026-293-0015 E-mail : shinogaf@grn.janis.or.jp 担当者：和食 正久



完成予想図

PG-11 鉄蕉会 亀田ファミリークリニック館山 (KFCT) 家庭医療後期専門研修プログラム

**圧倒的臨床力、診療領域の広さ、そして仲間。
亀田家庭医は現状にとどまることなく変わり続けます！**

★2013年度採用14期生 (Class of 2016) から正式に後期研修が4年となりました。

理由①：レベルの高い家庭医育成に3年間では少し足りない

理由②：Community Medicine 領域の充実

理由③：シニア4年目はフェローシップ先取り

■学年ごとの焦点■

●シニア1年目＝個人 2年目＝家族 3年目＝地域 4年目＝地域、研究、教育

●研修プログラム開始：2000年 (14年目) / 診療所開設：2006年6月 (8年目) / 日本家庭医療学会認定：2007年

●2013年度：常勤指導医4、非常勤指導医9、フェロー3、レジデント9、初期8

【臨床経験】

- ・月外来受診数のべ4-5000人 (稀な疾患もあり)
- ・在宅看取り率60% (癌、非癌とも) 在宅看取り年間50件 (うち癌15件)
- ・救急も強い！安房地域医療センターでの研修：救急受診数1500/月
- ・得意分野をのばすことのできる診療領域 (女性医療、小児、思春期、発達障害、スポーツ、訪問診療など)

【充実した学び】

- 充実したカンファレンス
- 同じ場所で研修を行う研修医の数としては最大規模
- 多彩な家庭医療指導医陣＋専門医からの最先端領域の学び (亀田総合病院、安房地域医療センター他)



【地域、内部/外部連携】

- 地域での健康教室/連携
- 多くのコメディカルとアットホームな職場環境でのチーム医療
- ジェネラリスト王国南房総 (総合診療科、内科・小児科プログラム、救急部)

【実績に勝るエビデンスなし】

- プログラム修了生11期29名、特別研修生受け入れのべ16名の伝統と実績
- 修了生は各地に家庭医としてのロールモデルとして活躍 (地域のプライマリ・ケア、大学、離島、海外！)



♣女性医師が働きやすいような工夫／

- ★当院では女性の後期研修医やスタッフもいて女性が働きやすい環境作りに理解がある職場です★
- 勤務調整可 (育児中の女性医師も楽しく働いています！)
- お子様を安心して預けられる病児・病後保育あり。
- 女性の復職支援 (産後、育児休暇) をサポートします。

◎連絡先／亀田ファミリークリニック館山 〒294-0051 千葉県館山市正木4304-9

TEL：0470-20-5520 FAX：0470-20-5521 E-mail：office.kfct@gmail.com

担当者：岡田 唯男 (医局秘書 粕谷)



PG-12 自治医科大学地域医療後期研修プログラム

この研修プログラムは、「地域住民と患者のニーズに的確に応え、合理的で温かな、信頼される保健医療サービスを自ら提供できるようになり、介護や福祉・産業振興・文化まで含めた幅広い分野のひとつと協働できる医師」を修了後の医師像として掲げています。いかがですか？あなたが、若いころ思い描いた医師像に近いのではないのでしょうか。そのための目標を7つ掲げました。どれもレベルの高い総合医（家庭医）のために必要とされる能力を示しています。

- 1 診療 診療所や中規模病院での自立した外来診療・中規模病院での自立した当直・上部消化管内視鏡検査（スクリーニング）・腹部超音波検査・入院患者管理・根拠に基づいた診療の実践・地域や家庭を視野に入れた診療・職員との良好な人間関係の維持
- 2 地域包括ケア その概念を述べる事ができる・在宅医療の導入と展開・他職種連携・介護保険の理解・病診～病病～診診連携・地域住民との良好な関係の構築
- 3 マネージメント 経営に向けた提言・医療安全活動・医療の質を向上運動・感染管理と感染症治療
- 4 生涯教育 地域で求められる新たなニーズに応じた積極的な学習
- 5 教育指導 研修医・他の医療専門職に対する教育活動の企画と実行
- 6 研究活動 地域のニーズに沿った研究テーマによる日常的に研究活動とその成果の発表
- 7 自己実現 なりたい自分を想定した、着実な行動・自己変革と環境改善

当プログラムは、教育資源と幅広いネットワークを持った大学・大学病院と地域医療機関の共同により、それぞれの特色を生かしつつ、これらを着実に実現します。自治医大病院の内科・総合診療内科を中心とした研修、地域医療機関の内科・総合診療・救急・小児科を中心とした研修、中小医療機関中心の研修のローテーションのいずれも可能です。

このプログラムのレジデントの他、同時に総合診療内科ローテートの臨床研修医、後期研修医、大学院生、自治医大卒業生の中堅研修医などの同僚研修者多数がおり、総勢30名の中で切磋琢磨できる環境です。

地域医療・家庭医療・総合診療をめざす方、地域の第一線で思いっきり活躍してみませんか。修了後は、地域医療に従事・専門研修・臨床研究・疫学研究などいずれも自由です。他では得がたい人的ネットワークが形成できる3年間をぜひ体験してください。見学・短期研修を歓迎します。

◆女性医師が働きやすいような工夫／約6割の勤務時間で研究歴、研修歴を認める短時間勤務制度、保育所等を用意しています。

◎連絡先／自治医科大学地域医療後期研修プログラム 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
TEL：028-58-7394 FAX：0285-44-0628 E-mail：chiikikenshoo@jichi.ac.jp
担当者：三瀬 順一（指導医）池田 美絵・佐々木 弥生（事務）

PG-13 東京医科大学病院後期臨床研修プログラム家庭医専門医コース

東京医科大学病院総合診療科の社会的使命は「適切なプライマリ・ケアをあらゆる人に提供することに貢献する」であり、活動目標は「東京都心にプライマリ・ケア教育の拠点を作る」ことにあります。

大学病院は、臨床医学教育の中心にありながら、プライマリ・ケア教育が行いにくい場です。このため、プライマリ・ケア領域に興味がある医学生・医師は大学を嫌う傾向があります。しかし、幅広い機能を持った巨大な組織であり社会資源である大学という存在を避けるのではなく活用することは、プライマリ・ケア教育に重要な意味があります。医学生や多様な医療者が学ぶ、そして大勢の患者さんが診療を受ける大学という場でもプライマリ・ケアを学び、実践し、理解を深めることが、今、求められているのです。大学だけでは不足しがちな点は、診療所や地域の病院と連携し、外部に開かれたバランスの取れた教育にすることが重要で効果的です。当科は、外部の多くの医療機関等と協力関係を作り交流しています。

プライマリ・ケア教育の核になる活動の一つが、後期研修プログラムです。プライマリ・ケアの後期研修と言っても、その先には、診療所などで主に活動する家庭医、中小の病院を中心に活動する総合内科医、あるいは離島・遠隔地医療や国際医療協力など、様々な領域に進路が広がっています。当科は、大学という大きく多様な組織の利点を生かして、様々な志望にあわせた、プライマリ・ケア領域の後期研修を支援します。もちろん、プライマリ・ケア領域の認定医・専門医の取得も全面的に支援しています。現在、当科では、下記の8種類の後期研修プログラムを提供しています。

- | | | |
|-------------------|----------------|----------------|
| ○家庭医療研修コース | ○総合診療研修コース | ○総合感染症診療研修コース |
| ○家庭医養成コース | ○総合内科医養成コース | ○内科臓器別専門医養成コース |
| ○離島・遠隔地医療担当医養成コース | ○国際医療協力人材支援コース | |

基本的な臨床能力をしっかりと身につけ、また高度先進医療や研究活動も含めた大学内外の学習の場を色々と活用して、充実した後期研修を展開していきましょう。

◆女性医師が働きやすいような工夫／出産・育児のための休暇のほか、育児短時間勤務の制度があります。また、育児やその他の理由でしばらく臨床から離れている医師の復職支援も行っています。詳しくは、「医師・学生・研究者支援センター」のHP <http://www.tmu-shien.com/index.html> もご覧ください。

◎連絡先／東京医科大学病院総合診療科 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1
TEL：03-3342-6111 FAX：03-3349-6052 E-mail：soshin@tokyo-med.ac.jp 担当者：原田 芳巳

PG-14 東京慈恵会医科大学附属病院 総合診療コース

慈恵医大とは

本学は、『病気を診ずして病人を診よ』の精神で日々研鑽を積んでおり、附属4病院あわせて2,600床以上のベッドを持つ国内最大級の医療機関です。東京都心の港区にある本院をはじめ、ベッドタウンである葛飾区、狛江市および千葉県柏市に分院を持ち、機能や地域性に応じた多彩な臨床経験の場があります。

総合診療コースとは

東京では今後爆発的に高齢者人口が増加するため、総合診療医が一層求められています。地域のニーズに応える「幅広い多様性」すなわち総合診療能力を持ち、プライマリ・ケアで生じる問題を臨床研究という手段で解決する能力を持つ人材を育成するため、全国の私立医大で唯一、文部科学省「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」事業に採択され、本コースが設置されました。

地域医療においては高齢者の日常生活、家族との関わり、社会資源の活用は重要な視点です。また地域で総合診療医が活躍するためには、在宅医療の技術や高齢者医療だけでなく小児医療、健康教育やワクチンなどの予防医療、適切な初療とトリアージのためER型救急診療能力も必須です。このため本学附属病院を始め、協力医療機関と連携してER・ICUから在宅まですべてのフィールドを経験できます。

プログラムの特徴

地域医療機関と大学が協力して行う総合診療医養成コースです。新専門医制度での総合診療専門医取得を見すえ、総合診療の「あるべき姿」の研修を実現します。

プログラム内容

診療所研修：大学の関連診療所や医療生協家庭医療学開発センターの教育診療所で指導医のもと研修を行い、小児から高齢者まで多彩なプライマリ・ケアを経験できます。

病院総合診療部門での研修：葛飾医療センターと第三病院では臓器別でない病床を有し、コモンディーズだけでなく、複合的な健康問題を抱える高齢者、不明熱等の未診断例、ICU管理を含む重症例診療を経験できます。さらに感染、栄養、緩和ケアなど横断チームにも参加し診療の質改善や市民教育・予防活動も経験します。

これらの総合診療専門研修は、みなさんのキャリアプランに応じて期間を選択することができ、学外ローテーション中でも学内カンファレンスやiPadを用いた遠隔会議でリアルタイムな指導とフィードバックを行います。

その他、専門内科研修6ヶ月、救急部研修、小児科研修は各3ヶ月間必修とし、さらに外科、整形外科、精神科、婦人科、皮膚科などの専門領域を選択研修することができます。

●連絡先／東京慈恵会医科大学附属病院 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8

TEL：03-3433-1111 FAX：03-5400-1267 E-mail：i-ohno@jikei.ac.jp 担当者：大野 岩男

PG-15 東京医療センター 総合内科 後期研修プログラム

豊富な症例と温かい仲間が待っている

昭和61年の設立以来、幅広い健康問題に対応し、患者の心理・社会状況にも配慮しつつ、一般的な内科疾患については、新しい知見や根拠に基づき、水準以上の医療を提供する総合内科として機能することを目指しています。

外来から入院、そして在宅医療へ

豊富な入院・外来症例を継続して体験し、その後に在宅医療を経験することで患者さんを全人的に診療します。

入院診療

肺炎、脳血管障害、感染症、喘息、糖尿病など侵襲的な専門治療を必要としない幅広い内科症例を担当しています。週35名前後の新入院があり、年間約2000名に上ります。専用病床は63床ですが、実質110床前後で推移しており、総合診療部門として全国でも最大規模の診療を展開しています。

外来診療

外来患者数は一日平均157名（平成21年度）、年間延べ約38000名（新患率は36.2%）です。初診外来では内科系愁訴や受診科が不明な患者さんの診療に従事します。再診外来では退院後や、初診外来で診察した内科系慢性疾患の患者さんを継続的に診療します。

二次救急

平日日中の二次救急を、後期研修医あたり半日/週担当しています。

臨床研修指導

初期研修医のみならず、医学生の実習の指導にも精力的に取り組んでいます。

後期研修医一人一人のニーズにこたえる

家庭医、病院総合医、各種スペシャリストなどそれぞれの目標に向けた研修ができます。

地域医療研修・他科研修

世田谷区内の診療所や、国立病院機構 東埼玉病院で集中的に地域医療に従事する期間があります。希望に応じて、救命センターや小児科、皮膚科、整形外科、放射線科など院内他科研修や院外研修を行うことも可能です。

◆女性医師が働きやすいような工夫／育児や介護などフルタイムで働けない後期研修医は、外来診療を中心に、個々の希望を考慮しながらカリキュラムを構築し、それぞれの目標を到達することを目指しています。現在、育児中の4名の女性後期研修医が在籍しており、週休2日、当直なし、時短制度など、個別の事情に応じて支援策を考慮しながら、入院診療や地域医療研修、他科研修、院外研修まで行っています。

随時見学を募集しています！詳しくは下記HPも参照ください

http://www.ntmc.go.jp/p_sect/contents/196.html

●連絡先／独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター 総合内科 〒152-8902 東京都目黒区東が丘 2-5-1

TEL：03-3411-0111 FAX：03-3412-9811 E-mail：ntmcgim@gmail.com 担当者：杉谷 真季

PG-16 東京民医連家庭医療レジデンスプログラム

【大都市東京で家庭医になろう！】

皆さんは「家庭医って東京では必要ないのでは？」とっていませんか？

しかし！ 東京でこそ家庭医は必要とされているのですっ！

プライマリ・ケアのイメージはどういったものでしょうか？ 科別に診ず幅広く診療する？ 医療機関が少ない場所での医療？ 赤ちゃんからお年寄りまで診る？ 訪問診療や往診をする？ 病気ではなく病む人を診る？ 予防から看取りまで？

東京には大学病院や総合病院、各科専門病院、専門クリニックなど多数ありますが、プライマリ・ケアは大都市でも必要とされています。

世界有数の大都市だからこそ、これからの日本の未来像がいち早く見られます。そして近い将来大きな問題をはらむ地域です。複数の疾病を思い易い高齢者は東京が一番増えます。世帯が縮小し若者も高齢者も一人暮らしで困った時の支えが薄くなっています。東京はほんとに多種多彩な人が住む街です。所得も高く多くの専門医に通院する人もいれば、受診を控える生活困窮者もいます。保育環境も整わず出生率が最低の東京でも子どもを産み育てる若い夫婦がいます。危険な生活習慣の若者もいます。救急医療の需要が増えてますが、それを未然に防いだり、適切に救急車を利用することも求められます。こうしたことに応えることがプライマリ・ケアではないでしょうか。これらを総合的に診る医師は不足しています。



私たち、東京民医連家庭医療レジデンスプログラムは、この大都市東京のど真ん中、新宿・中野・世田谷・板橋にある6つの教育診療所に後期研修1年目から所属し、1,2年目は週1日、3年目は週4日診療を行うことで、大都市で必要とされるプライマリ・ケアの基礎を豊富な健康問題を通じて学びます。またプログラムの特色の一つに看護師をはじめとするスタッフが研修に対して非常に協力的で、チームリーダーとしての学びも深くできることがあります。

指導医はプライマリ・ケア学会認定医でありかつ診療所長として第一線で診療にあたっており、また月1回のレジデント・デイには精神科専門医がアドバイザーとして参加するなど、研修医より多い指導医と家庭医療専門医も集まります。

また後期研修終了後には、指導医として後期研修医を指導しながら教育方法を学ぶことを始め、在宅専門医研修、臨床研究などへの道も進めます。

私達と一緒に大都市東京で家庭医になりませんか？

是非一度、レジデント・デイに見学に来てください！

♣女性医師が働きやすいような工夫／女性医師・スタッフが多く、互いにサポートしあえる職場です。また、様々なライフイベントも相談しながら研修を進められます。



◎連絡先／中野共立病院 〒164-0001 東京都中野区中野5-44-7

TEL : 03-3386-3166 FAX : 03-3386-3724 E-mail : ikyoku-jimu@kenyu-kai.or.jp 担当者 : 小林、新井

PG-17 王子生協病院 女性医師復帰支援 家庭医後期研修プログラム「カトレア」

2010年、当時子育て中だった女性医師が中心となり、ブランクのある方、子育てや介護、自身の体調不良などを抱えていても無理なく続けられる新しいプログラムを作ることになりました。時短制度の利用、当直免除、土日休み勤務体系とし、プログラム研修期間を3年半～4年程度とし、中断が可能なモジュールごとに評価する仕組みを作りました。初期研修が修了していればいつでも後期研修医としてこのプログラムの入ることができます。体調や家庭状況により最低週4日以上働くことが常勤医師になる条件です。

医師としての勤務のブランクが長い場合は、プログラムを始める前に、まず外来や往診、救急当番の見学から始め、その間に知識や診察方法を学びます。慣れてきたら病棟で少人数から（指導医とともに）患者を受持ち臨床の感を取り戻していきます。具体的な研修内容はそれぞれのおかれた事情やこれまでの臨床経験を加味してオーダーメイドしていきます。（リ・スタートプログラム）

サポートシステムとしては月1回、再復帰過程の女性医師の集まり（カトレア外来塾）に参加することです。ここでは講師を招いた学習会の開催、振り返りを実施しています。いちばんの難関はポートフォリオの作成ですが、日々の診察の中での症例のモックアップ、毎月のレジデントデイでのディスカッション、年2回のポートフォリオ合宿（子連れ参加可能）等を通して計画的に作成を支援していきます。現在2名の女性医師が研修をすすめています。

（メッセージ）医師も一人ひとりの人生の事情があります。特に女性医師は妊娠、出産、育児などのライフイベントとキャリア形成の時期が重なるなど悩みは多いと思います。「カトレア」はこの様な悩みを抱えた女性医師のためのプログラムです。子育て中だから、体力に自信がないからとあきらめるのではなく思い切って家庭医専門医の研修に挑戦して頂ければと思います。王子生協病院は30年前から地域で働く医師を育ててきた伝統があり学習者中心の教育文化を築いてきました。学ぶ環境としてもおすすめできると思います。

♣女性医師が働きやすいような工夫／時短勤務制度の利用 当直免除 土曜日曜休み 病棟でも受け持ち患者の人数を制限するなど、フレキシブルに対応しています。

◎連絡先／王子生協病院 〒114-0003 東京都北区豊島3-4-15

TEL：03-3912-2201（代表） 03-3912-7210（医局直通）

FAX：03-3912-6170

E-mail：takanori_kanoh@tokyohokuto.or.jp 担当者：加納 高則



PG-18 王子生協病院・東京家庭医療レジデンシー

地域の主治医・生涯の主治医をビジョンとし、優れた「病院家庭医」を育てるプログラムです。

<病院家庭医を育てる研修>

●外来-入院-往診すべての場で継続性を持って診療する

同じ外来と往診を3年続けることで、1人の患者さんを外来-入院-往診すべての場面で継続性をもって診る経験を積み、ライフステージに寄り添う医療を学ぶことができます。

●地域連携コーディネーターとなる

継続的に診ていた患者さんを三次医療機関に紹介し、逆に緩和ケアやリハビリの目的で紹介を受けるような「医療機関の橋渡し」となる経験を積みます。また、地域で暮らし続けるために他職種や在宅チームと連携して退院後の生活を支援することを繰り返し学びます。

<プログラムの特徴>

●すべての健康問題に対応できる家庭医を育てます

総合診療病棟での研修に加え、小児科、緩和ケア、診療所研修を行い、年齢・性別・疾患を問わない、すべての健康問題に対応できるようカリキュラムが組まれています。

●質の高い医学教育を提供します

ポートフォリオは担当指導医を配置し、毎月のレジデントデイと年2回の合宿で集中的に作成支援を行います。医学教育を学んだ指導医のもとで毎月の振り返り、Clinical Jazzを行います。メンタリング、360度評価、Mini-CEX、ITEも定例化しています。また初心者でも取り組めるよう臨床研究の教育セッションを月1回実施しています。

●自ら教えながら学んでいきます

初期研修医の直接の指導医となることで、医学教育を実践的に学ぶことができます。医学教育に必要な知識のレクチャーを受け、教育の振り返りをするのも定例になっております。

<ホームページ> <http://tokyo-hokuto.jp/igakusei/b/b02.html>

♣女性医師が働きやすいような工夫／勤務医師の半数が女性で、当法人の女性医師復帰支援プログラム「カトレア」の研修医も所属し、「子育て中の短時間労働を支援する文化」が根付いています。プログラムの継続が困難な場合は、よりフレキシブルな後期研修プログラムである「カトレア」への移行もできます。

子育て中の当直免除や時短勤務および担当患者数の調整などが実際に行われている工夫の一部です。

またスタッフの多くが利用する保育園が病院の隣にあり、送迎に大変便利な環境です。

◎連絡先／東京ほくと医療生活協同組合・王子生協病院医局 〒114-0003 東京都北区豊島3丁目4-15

TEL：03-3912-7210 FAX：03-3912-6170 E-mail：takanori_kanoh@tokyohokuto.or.jp 担当者：加納 高則

PG-19 王子生協病院・病院総合医養成プログラム「ほくと」

地域の主治医・生涯の主治医となる、優れた「病院総合医を育てる研修」

緩和ケア病床を含む総合内科病床で、頻度の高い疾患を継続的に診療し、ときには高度医療機関と地域の橋渡しとなることで地域の責任を担っています。家庭医育成を15年前から継続して実践し、成熟した教育環境での研修が可能です。

<地域のニーズに応える>

- ・外来－入院－往診という一連の流れを経験できる
- ・大病院と地域の橋渡し役としてコーディネーター能力を向上できる

<幅広い研修内容>

- ・1年を通じた外来・訪問診療で医療の継続性を学ぶことができる
- ・外来・入院・往診のすべての場面において老年医学および緩和ケアを学ぶことができる
- ・ICUで高度集中医療を学ぶことができる
- ・各種委員会（NST、ICT、ICLS等）で組織運営やリーダーシップを学ぶ事ができる
- ・地域の方々を対象とした学習会が頻繁に開催され、診療以外で健康増進を促す機会がある

<確立した研修評価>

- ・月一回の振り返り、360度評価などで省察的実践を促す
- ・ポートフォリオ評価で病院総合医の能力の獲得を促す

<家庭医が活躍する教育環境>

- ・指導医が家庭医療専門医であり、家庭医としての教育を受けられる
- ・常勤医の多くが家庭医であり、病院全体で家庭医療を提供している
- ・メンタリングによる研修のサポートがある

<家庭医を目指す初期・後期研修の指導>

- ・指導に関わることで教育者としての能力を向上できる

<研究の支援>

- ・研究のセッションを月1回行い、初学者でも研究ができる

<標準的な研修内容>

王子生協病院総合内科病床：9ヶ月、みさと健和病院ICU：3ヶ月
1年を通じて外来および訪問診療を週1回ずつ行う



♣女性医師が働きやすい工夫／勤務医の半数が女性で、実際に子育て中の医師も常時複数名在籍し「子育て中の短時間労働を支援する文化」が根付いています。当直免除や時短勤務および患者数の調整などが工夫の一部です。保育園が病院の隣にあり、送迎に便利な環境です。

◎連絡先／東京ほくと医療生活協同組合・王子生協病院医局 〒114-0003 東京都北区豊島3丁目4-15
TEL：03-3912-7210 FAX：03-3912-6170 E-mail：takanori_kanoh@tokyohokuto.or.jp 担当者：加納 高則

PG-20 東葛病院 総合診療・家庭医療後期研修プログラム「N.Y.C.P」

東葛病院は、1983年に千葉県流山市に開院しました。現在は、サテライトとして4診療所をもち、コミュニティーをベースに、約30年の医療活動を継続してきました。「疾病を生活と労働の場からとらえる」視点を大事にしなが、外来・入院・在宅診療ばかりでなく、種々の健診や産業医活動、健康づくり活動、介護事業のバックアップなどを行ってきました。また、流山市は、子育て世代を中心とした人口増加により、出産や子育てのニーズも高まってきています。さまざまな医療ニーズに応えるプライマリ・ケアを基本とした研修をおこないます。

【目的】医療の歴史の中で、「臓器別の専門」が専門性と称せられてきましたが、「地域の中で患者、地域住民と医療活動を展開」していくことも、きわめて専門性の高い仕事であると考えこのプログラムを実施することとしました。総合診療・家庭医療ではメディカルスタッフとおたがいの専門性を尊重した集団医療の形成が必要です。その中で、必要とされるチームリーダーの役割を果たせる医師の養成を目指します。また、医療面だけでなく、さまざまな「生きていくうえでの困難」を共有しつつ、患者・地域住民の人権を尊重する、あるいは守る立場での活動ができる能力の獲得を目指します。

【個別目標】

1. 医師として EBM や予防医療を重視し訓練された臨床能力を持ち、地域保健医療活動への参画を重視する視点を身につける。
2. 様々な場面にトータルに対応できる総合診療医としての能力を身につける。
3. 社会状況を知り、地域住民、はたらく人々の医療・福祉の問題を抽出し、改善するための方法を考え実践する。
4. 指導医・研究者として学習者中心の臨床教育を実施できるようにする
5. 臨床疫学、行動科学、地域指向性プライマリ・ケアに関する研究や実践の基礎的能力をもち、地域の健康問題に対し科学的視点でアプローチできる能力の獲得。
6. 生涯学習者として自己決定型学習を実施できる。
7. 仲間として常に共同で学び、チームの一員としてその責任と役割をはたすことができる。

【研修領域】総合内科研修（急性期・慢性期）・診療所研修（サテライト）・小児科研修・選択研修：緩和ケア・精神科等

【研修期間】3年間

【研修修了後の進路】引き続き当院のスタッフとしてフェロウシップ研修等継続可能です。

♣女性医師が働きやすい工夫／短時間常勤制度があり、さまざまな制約のある医師の研修をサポートしています。

◎連絡先／医療法人財団 東京勤労者医療会 東葛病院 〒270-0174 千葉県流山市下花輪409
TEL：04-7158-9207 FAX：04-7158-9205 E-mail：tk_residents_support@tokyo-kinikai.com
担当者：診療部 医師研修担当 奥村・佐藤

PG-21 地域ホスピタリストプログラム安房

地域ホスピタリストとは、地域医療を担う中小の病院で勤務するジェネラリストのことです。本プログラムでは、地域医療の現場で地域医療を担うホスピタリストを養成し、日本の地域医療を下支えすることを目的としています。

安房地域医療センター（ARMEC）は、千葉県南房総に位置し、地域医療の中核を担う146床の急性期病院です。亀田総合病院の関連病院であり、スタッフ医師の多くは亀田からの出向です。地域ジェネラリストプログラムという独特の初期研修プログラムの中核であり、初期研修医も多く学んでいます。ARMECは、亀田総合病院、亀田ファミリークリニック館山（KFCT）とともに、南房総におけるIHN（Integrated Healthcare Network）を形成しています。さらに、地域の自治体病院とはNPO法人地域医療Gネットを通して連携しています。

本プログラムでは、これらの連携を最大限に活用し、中規模病院であるARMECを中心として、大病院、診療所、自治体病院などをローテーションすることにより、地域ホスピタリストを育成します。

ARMECでの研修：病棟研修、救急研修、外来研修を行います。病棟診療は、総合診療科を中心として、循環器内科、消化器内科や、整形外科ローテーションなども可能です。総合診療科の指導医は、亀田総合病院での後期研修を修了した中堅医師4名と放射線科専門医であり充実しています。また、アメリカ人指導医のティーチングが毎週あり、さらに亀田総合診療科との合同カンファランス、亀田で行われる教育レクチャーの中継など、指導環境は非常に恵まれています。救急外来では、専属の救急専門医が3名常駐して、年間23000人（救急車2100台）を診療しており、内容の濃い研修を受けられます。外来研修については、3年間を通じて、プリセプターの監督下に継続外来研修を行います。

KFCTでの研修：診療所ジェネラリスト（家庭医）から幅広い外来診療能力について指導を受けます。成人のみならず、小児から妊婦まで幅広く診療し、さらに、在宅医療、緩和医療、予防医学なども学びます。

亀田総合病院での研修：総合診療科、小児科での研修の他に、膠原病内科、皮膚科などの専門科研修を受けることができます。

自治体病院での研修：近隣の小規模国保病院でのホスピタリストから学びます。

選択研修：国内あるいは国外での研修が可能です。

◎連絡先／安房地域医療センター 〒294-0014 千葉県館山市山本1155

TEL：0470-25-5111 FAX：0470-25-5033 E-mail：nishino.hiroshi@awairyo.jp 担当者：西野 洋

PG-22 つくばフェロー（筑波大学 総合診療グループ）

つくばフェローでは、希望する分野で高い能力を獲得できるように大学ならではの豊富な教育資源とネットワーク、コーディネート能力を生かしてキャリアをサポートしています。

【つくばフェローの各コース】

①病院総合医フェローシップ：内科を中心とした救急・病棟・外来と幅広い領域において中心的な役割を担う病院総合医としての専門的な能力を修得します。フェローシップは、エキサイティングな地域医療の最前線で、豊富な症例数＋充実した指導医群＋内科入院診療は原則全て総合診療科という我が国唯一の「Department of Medicine」体制を採用している水戸協同病院（筑波大学附属病院 水戸地域医療教育センター）を中心に行います。特徴は、1年間で入院内科症例約400例、内科外来約500例、内科救急約600例を経験しながらも、外国人講師などによる定期的なレクチャーを充実させ、臨床と教育の両方を重視していることです。

②いばらき在宅フェローシップ：在宅緩和ケア、多職種連携を実践しながら在宅専門医取得を目指します。フェローシップは、総合診療医がグループ診療している診療所を中心に行います。特徴は、がん患者だけでなく非がん患者の在宅緩和ケア、在宅看取りを積極的に行いながら、経験豊かな指導医と一緒に在宅専門医取得に必要な知識、技術の習得及びポートフォリオ作成を進め、在宅における確かな診療・マネジメント能力を身に着けることです。

③筑波大学 大学院 地域医療教育学：「教育を通じた地域医療貢献」をキーワードに、地域医療の現場での教育、医師不足地域での診療、地域医療再生や臨床医学教育をテーマとした研究など、さまざまな活動を精力的に展開しています。地域医療、総合診療、医学教育などをテーマとして、研究に関するスキルを深めることができます。また、公衆衛生修士（MPH）を取得するコース、がんプロフェッショナルプランを選択して、緩和医療専門医受験資格を取得するコースもあります。過去の研究業績に関しては、こちらをご覧ください。

<http://pcmed-tsukuba.jp/research/works/>

◆女性医師が働きやすい工夫／筑波大学総合診療グループは、メンバーの半数近くが女性医師であり、出産・育児を経験しながらキャリアを積み重ねている先輩が多くいるので、グループ全体でメンバーの経験や知恵を共有し、ライフステージに合わせて女性医師のキャリアをサポートしています。

◎連絡先／筑波大学 総合診療グループ 〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1 筑波大学附属病院 総合診療グループ

TEL：029-853-3189 FAX：029-853-3189 E-mail：soshin@md.tsukuba.ac.jp 担当者：前野 哲博

PG-23 地域医療振興協会 家庭医療後期研修プログラム「地域医療のススメ」Ver.2

プログラムの特色は、地域医療研修センターによる研修支援と、研修施設が多様なことです。研修施設は、離島診療所、山間へき地の診療所、小病院など多様で、それぞれの施設には、その地域で長く勤める指導医がおり、地域に根ざした医療機関ならではの研修が可能です。

また、レジデントを対象とした講習会やワークショップ、サイトビジット（各地に散らばるレジデントを指導医が訪問する）、テレビ会議システムを利用した研修振り返り、勉強会を定期的実施し、スーパーバイザーが研修開始から修了までの4年間、継続してレジデントをフォローアップします。

レジデント、修了生（37名）もプログラム運営に積極的に参加してもらい、みんなで作り上げて行くプログラムとなっています。<プログラム指導医>

プログラム責任者を含むコアとなる指導医は、いずれもへき地での臨床経験が長く、EBMを忙しい臨床現場においても使いこなし、患者中心の医療の方法を役立て、行動科学の手法も加えながら、倫理的な問題にも向き合い、保健、予防、介護、福祉の現場での経験も豊富な医師たちです。また、教育手法、臨床研究についても多くのノウハウを有しています。

◎年間の行事予定

・合同オリエンテーション ・へき地地域医療学会 ・中間振り返り ・ポートフォリオ発表会 ・修了評価

◎ローテートパターン（Ver.2は4年間のプログラムです）

・研修指定病院または地域病院 12か月

※基本的に内科（6か月必須）・救急（3か月必須）・小児科（3か月必須）として勤務

・へき地診療所・地域病院（総合診療Ⅰ） 6～12か月

※単独で勤務することはなく、指導医のいる診療所・病院で研修。一カ所の施設で一年以上過ごす事で施設のある地域での継続性を感じる事ができます。

・中核病院の総合診療（総合診療Ⅱ） 6～12ヶ月

※関東では「東京北社会保険病院」、関西では「市立奈良病院」等の総合診療科での研修です。

・選択 18ヶ月

整形外科外来、皮膚科外来、眼科外来、耳鼻科外来、緩和ケア、放射線科

オレゴン健康科学大学家庭医療学（OHSU）、国内留学など

♣女性医師が働きやすいような工夫／出産、育児などの場合は、状況に応じてフルタイムで働いたり、当直を減らしたり、パートになったり、年単位で完全に休んだりすることも可能です。その時その時できる範囲の仕事、研修を行うことが可能です。産休や育休についても、今までに3名が取得、取得後研修に復帰し、修了しています。

◎連絡先／公益社団法人地域医療振興協会 〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目6番4号 海運ビル4階

TEL：03-5210-2921 FAX：03-5210-2924 E-mail：s-nomura@jadecom.or.jp 担当者：臨床研修センター 野村

PG-24 医療生協家庭医療学レジデンシー・東京 V2対応

医療福祉生協連合会 家庭医療学開発センター（CDMD）が運営するレジデンシーの特徴

① 都市型診療所を拠点とした家庭医の養成（東京・神奈川・埼玉 8つの教育診療所）

② 研修期間を通しての教育診療所ワンデイバック（3年間の継続外来）

③ ショーケース・ポートフォリオを最大限に活用した学習

④ 家庭医療学の理論的基盤の重視

⑤ レジデントデイ、レジデントセミナーなどによる学習機会の保証

⑥ フェロシップやリサーチネットワークなど、CFMDの諸活動との連携

家庭医療学を学ぶのに非常に適した医療生協の診療所をベースとした、ユニークかつ先進的なレジデンシーです。多くの情熱あるレジデントの参加をお待ちしております。

About Us

センター長：藤沼康樹

指導医：西村真紀・喜瀬守人・平原佐斗司・阿部佳子・安来志保・渡邊隆将・斎木啓子・遠井敬大

Activities

Research PBRN

Practice-Based Research Network（PBRN）は診療所を基盤とし、現場の中で得られた仮説や疑問に対して、その現場で解明する研究ネットワークです。家庭医療に関するさまざまな研究活動をすすめ、日本および世界の家庭医療学の発展に寄与します。

Fellowship

レジデンシー修了後、家庭医としてさらに学び続けるためのフェロシッププログラムを運営しています。家庭医療指導医、在宅医療専門医、リサーチ（PhD取得）の3つのフェロシップがあります。

Development

医療生協の診療所を中心として、効率的・効果的で質保証された家庭医療の実践を行うモデルとなる診療所づくりを行います。

HP <http://www.cfmd.jp/> fb ページ <https://www.facebook.com/CFMD.Tokyo>

♣女性医師が働きやすいような工夫／勤務形態の複線化。出産・育児を支援するため、週4日勤務、当直免除等常勤医師の勤務形態を多様化させている。

◎連絡先／医療福祉生協連 家庭医療学開発センター 〒169-0073 東京都新宿区百人町3-25-1 サンケンビルディング4階

TEL：03-4334-1580 FAX：03-4334-1585 E-mail：kd_i@hew.coop 担当者：氏名 出野 孝道（イデノコウドウ）

PG-25 長野厚生連佐久総合病院地域医療部後期研修プログラム

佐久総合病院は、故若月俊一名誉総長が昭和20年に赴任して以来、「地域とともにある医療」をいかに実践していくかを考えながら活動してきた。現在では、小海分院・診療所と2014年3月に開院した佐久医療センターを含めた「佐久総合病院グループ」が、訪問診療から高度専門医療まで幅広い地域のニーズに対応すべく診療を行っている。

地域医療部後期研修プログラムでは、佐久地域の大・中・小規模病院・診療所など様々な場で経験を積む事で、家庭医・総合診療医として必要な臨床能力の基礎を身につける事を目標としている。3年間の研修は、小海分院・診療所での家庭医療専門研修（12ヶ月以上）・佐久総合病院総合診療科での総合内科研修（6ヶ月以上）・佐久医療センター小児科での小児科研修（3ヶ月）・佐久医療センター救命救急センターでの研修（3ヶ月以上）が必修項目で、残りの期間は各研修医の希望に応じて、専門各科のローテーション研修を行う。いずれの場合においても、医学的知識だけではなく、生活背景・社会背景・地域風土などを考慮しながら、患者を幅広く総合的にとらえる視点を養う事を重視している。

また当院では、下記に示すように学外講師を招いた勉強会を多く開催しており、後期研修医はそれらに参加するだけでなく、勉強会の企画運営にも携わる。

【平成25年度 開催勉強会】感染症セミナー（国立国際医療センター感染症内科 大曲貴夫先生）。身体診察ワークショップ（名古屋大学総合診療科 鈴木富雄先生）。ポートフォリオ検討会（東京大学医学教育センター 大西弘高先生）。教育回診、EBM 勉強会（佐賀大学総合診療科前教授 小泉俊三先生）。諏訪中央病院との症例検討会「環八ヶ岳クリニカルカンファレンス」

◎連絡先／佐久総合病院 〒384-0301 長野県佐久市臼田197

TEL：0267-63-8282 FAX：0267-82-9638 E-mail：rinken@sakuhp.or.jp 担当者：土屋 和久（人材育成推進室）

PG-26 医療生協さいたま 総合医・家庭医プログラム

医療生協さいたまの「総合医・家庭医プログラム」をご案内します。本プログラムは平成21年に日本プライマリケア・連合学会の認定を受けました。

昨年初めて卒業生を輩出し、めでたく家庭医療専門医試験に合格しました。そして、現在も2名の研修医が在籍しています。平成26年からプライマリ・ケア連合学会の後期研修プログラム ver2に準拠して、プログラム内容を一部変更しました。本プログラムの最大の特徴は「埼玉」で研修を積むことにあります。「埼玉」は人口に占める医師の割合が日本で一番少ない県です。一方で2025年までに65歳以上の老年人口は現在の1.5倍、75歳以上に限ると2倍になると言われ、この10年で超高速に高齢化が進むことが推測されています。だからこそ、今、家庭医・総合医が求められています。

<その他の特徴>

- 1) 学べる環境；研修診療所のさいわい診療所と大井協同診療所は小児の予防接種・健診から 高齢者の慢性疾患、訪問診療まで、豊富な症例を経験できます。また総合病院は、すべての診療科が1つの医局にあるアットホームな雰囲気、どの科にも相談しやすいです。
- 2) 地域に根ざした医療；医療生協のプログラムですので、医療生協の組合員への患者教育や健康相談を経験できます。最近ではHPH（健康増進活動）を意識して、貧困問題や地域づくりに取り組んでいます。
- 3) 医療生協のネットワーク；埼玉県内に8つの診療所、3つの中小病院、1つのセンター病院、2つの老健、18の介護事業所を有する豊富な医療ネットワークで学ぶことができます。その後のキャリアもいろいろ選べます。また、在宅専門医研修、病院総合医スタッフ、診療所副所長も合わせて募集しています。

後期研修の説明や、施設見学を希望する方は下記のフォーマットからお問い合わせ下さい。

<http://www.skymet.jp/senior/guidance.php>

詳しくは埼玉協同病院教育研修センター <http://www.skymet.jp/> 「SKYMET」または「埼玉 家庭医」で検索してください。

♣女性医師が働きやすいような工夫／埼玉協同病院には院内保育所があり、日中はもちろん時間外や夜間・当直の保育に対応します。埼玉西協同病院、熊谷生協病院には病児保育室があり、大井協同診療所には保育士資格を有する職員がいます。埼玉協同病院の女性医師比率は28.7%と全国平均より10%多く、女性管理医師が多数います。

◎連絡先／医療生協さいたま生活協同組合 〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂1317

TEL：048-294-6111(代) FAX：048-294-1601 E-mail：oinuma@mcp-saitama.or.jp

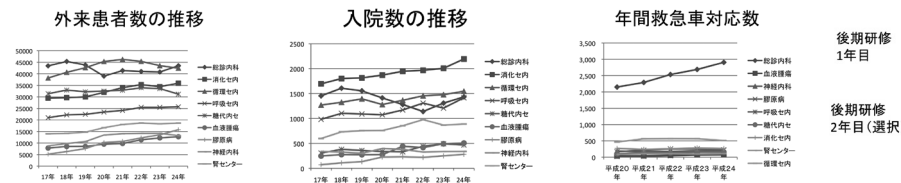
担当者：生沼 信恵（おいぬま のぶえ）

PG-27 総合医マインドを涵養し、subspeciality、基礎研究への扉を開く

【理念】臨床は general、研究は special

【研修の考え】大学病院の総合診療科は、臨床・教育に加え、研究にも大きな役割を担っています。よき臨床医の育成と同時に、基礎研究の扉を開けることも重要と考えています。医学教育では、臨床医育成のみならず、研究者育成も担うべき責任を感じています。

【東邦大学総合診療・救急医学講座の特徴】大学病院の総合診療科は患者数が少なく、振り分けと医学教育に特化している印象を持つたれがちですが、東邦大学総合診療・救急医学講座では専門診療科と同等の外来、入院数を担当し、救急車対応は病院全体の過半数を占めています。



【後期研修の流れ】後期研修1年目は総合内科で多数例の臨床経験を重ね、臨床研究の取り組み方を学びます。

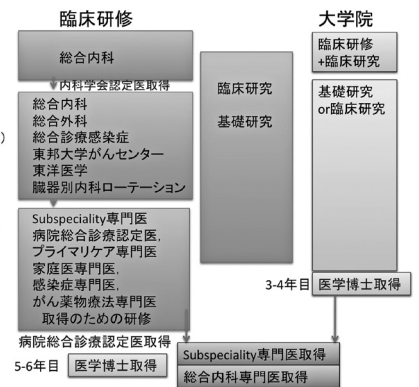
2年目では選択により、大森病院内の診療科をローテーションする。総合診療科が取り組む感染症、がん、東洋医学だけではなく、外科、内科、病理なども選択できます。臨床研究で論文作成するスキルを学ぶと同時に、興味ある領域では動物センターや研究室でラット、細胞培養などの研究に踏み出すこともできます。大学院に入学した場合には、研究に割く時間を多く充てることができ、3-4年目で学位を取得できます。現在進行している基礎研究の大きなテーマは右記の通りです。

【総合医から subspeciality 領域専門医へ】総合医であることを意識して、subspeciality 領域の研鑽を積むことは、「内科医」として最も重要な姿勢と考えています。後期研修で特に興味がある分野で、subspeciality 領域の専門医取得のため、研修の場を広く求めています。医局員が outward している学外の研修施設は右記の通りです。

♣女性医師が働きやすいような工夫/連日の勤務が難しい事情のある方は、准修練医として採用し、臨床または基礎実験など、各自の事情に合わせて、医師としてのポテンシャル向上を目指します。

【最後に】臨床と研究は表裏一体です。基礎研究を推進していますが、多くの患者さんに来て頂いており、東邦大学総合診療・救急医学講座の診療の姿勢は多くの患者さんが支持してくれています。臨床経験と基礎研究のどちらにも興味がある先生方、是非大森へお出でください。

◎連絡先/東邦大学総合診療・救急医学講座 〒143-8541 東京都大田区大森西6-11-1
TEL : 03-3762-4151 FAX : 03-3765-6518 E-mail : satomitsuko@med.toho-u.ac.jp
担当者：佐藤 光子 (医局秘書)、中西 員茂 (医局長)



- 基礎研究 (2012-2014年度)
1. 肥満と高血圧、腎硬化症 (ラット)
 2. 糖尿病代謝の生化学的解析(ラット・ヒト)
 3. アルコール性臓器障害(ラット)
 4. MRSA、真菌感染の分子生物学的検討 (in vitro)
 5. がん細胞の糖代謝 (in vitro)
 6. メタボリック症候群の脳科学(ラット)

- Subspeciality 専門医取得のための outward (2012-2014年度)
1. 東海大学 循環器内科
 2. 国立循環器病センター 循環器内科
 3. 沖縄中部病院 総合内科・腎臓内科
 4. さんむ医療センター 内視鏡部
 5. 菊名総合病院 総合診療科・内視鏡センター
 6. 蒲田総合病院 糖尿病センター
 7. 国立精神・神経センター 神経内科
 8. 沖縄県立八重山病院 腎臓内科
 9. 関東労災病院 感染症科
 10. 癌研有明病院 化学療法科

PG-28 湘南鎌倉総合病院 総合内科後期研修プログラム

プライマリーケアから病院総合医の領域まで、高いレベルの臨床能力を備えた医師をめざす後期研修プログラムを提供します。当院の総合内科は外来診療、救急内科診療、集学的診療を得意とする診療科であり、機能的、精神的、経済・社会的な領域もケアできる診療も目指しています。我々は、総合病院のみならず、専門科が揃っていない病院やクリニックでも最大限のパフォーマンスを発揮できる医師を育成・輩出しています。実践的な総合内科診療を目指し、身体診察、鑑別診断、臨床推論、栄養学、感染症などの基礎的なことを学ぶ「essential IM」、内科の専門領域の知識を深める、「Basic IM」、教育学、倫理学などや、臨床研究、内科系以外の科の知識を深める「Advanced IM」の3つの総合内科カテゴリーに分類し、個々のニーズにあわせた業務と研修を設定しています。研修医のみならずスタッフにも rotation、sub-duty、seminar などによる生涯学習を推奨しています。救急車受入台数14000台、救急受診者総数47000人ならではの high volume の「救急」と各専門診療科が目指す「先進医療」が織りなす我々にしかできない、我々だからこそできる「『湘鎌』総合内科」を展開しています。後期研修では、特に Basic IM を徹底して修練する一つ的手段として専門内科ローテーションを導入しています。総合内科ベッドは140床あり内科の中心を担っており、専門内科ローテーション修了後も専門科からのバックアップ・フィードバックを受けながら総合内科で専門科診療も継続できます。また Advanced IM は総合内科独自のプログラムとして総合力を身につけていきます。後期研修3年目では「チーフレジデントプログラム」を用意しています。チーフレジデント終了者には、国内外の短期留学が可能となり、十分な支援も行っています。具体的な研修期間は、2-3カ月の単位での rotation 研修や週1-2回の sub-duty (内視鏡検査やエコー検査など) となります。現在15名の後期研修医が所属しており、今期は7名の新規入職が決定しております。

♣女性医師が働きやすいような工夫／子育てと仕事の両立に必要な要素として、当直や時間外勤務の免除をそれぞれの状況にあわせ、調整を行っています。現在一人の後期研修医に対して子育てが一段落した後のキャリアアッププランを見据えて、勤務調整と適宜指導を行っております。

◎連絡先／湘南鎌倉総合病院 〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本1370-1
TEL : 0467-46-1717 FAX : 0467-45-0190 E-mail : n_kobayashi@shonankamakura.or.jp
担当者：内科後期研修センター秘書 小林 直子

PG-29 千葉大学医学部附属病院総合診療部後期研修プログラム

当部の後期研修プログラムは、診断のついていない症候や健康問題を有する患者に対して、生物・行動・社会的な問題すべてを原因臓器に限定されない包括的な切り口で診療する専門技能を身につけることを到達目標としています。特に、外来研修は当部の特徴であり、外来診断学のエキスパートである当部のスタッフが、すべての症例に対してリアルタイムかつ person to person の効果的な外来教育を行い、充実した後期研修を提供します。総合診療に興味のある学生さん・研修医の皆さん、外来診療の達人と一緒に目指しましょう。将来、外来を中心に活躍したいと考えている女性医師もご相談下さい。

後期研修プログラムは3年間で、地域関連施設での外来、病棟研修が含まれ、日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医および家庭医療専門医、日本内科学会認定内科医および総合内科専門医の取得が可能です。希望者は、本学大学院へ進学し、学位（医学博士）を取得できます。当部の研究テーマは、各疾患における問診の操作特性、診断プロセスなど、診断推論学に関する研究をはじめ、患者受療行動、満足度調査などの臨床研究です。また、当部では外来症例の症例報告を積極的に行っています。後期研修修了後は、病院勤務医、準備期間を経て総合診療医としての開業の他、当部の指導医として後進の指導に携わる道もあります。

当院では、今年7月に新外来棟が完成し、当部の診察室も大幅に増える予定です。これまで診療スペースの関係で制限せざるを得なかった後期研修医の採用人数も今後は増やせる見通しとなりました。

当部にご興味のある方は、是非、一度、外来の見学やカンファレンス（原則木曜日）に参加して下さい。外来見学、カンファレンス参加ご希望の方は、下記連絡先までお気軽にご連絡下さい。お待ちしております。

♣女性医師が働きやすいような工夫／院内保育所を完備しています。また、男女共に育児休業を取得可能である他、妊娠、育児中には、適宜、勤務日数、時間の調整を行うなど、女性医師が働きやすい環境を整備しています。

◎連絡先／千葉大学医学部附属病院総合診療部 〒260-8677 千葉県千葉市中央区玄鼻1-8-1
TEL : 043-222-7171 FAX : 043-224-4758 E-mail : chiba_u_soshin@mac.com 担当者：大平 善之

PG-30 東京保健生活協同組合 health promoting & 家庭医療 シニア修練プログラム

今、日本は医療崩壊などと言われ、医療の危機を迎えていると言う人達があります。医者は不足しなかなか充足されず、一方で高齢の方々が増え、間もなく4人に1人が65歳以上という時代がやってきます。でも！ そんな行き詰ったような医療を変えるチャンスがここにあるとしたら、あなたは参加しますか？ 大きな祝福のもとに生を受け、成長し学び、人と関わり、家族や友人に見守られて尊厳を持って最後を迎える。そんな人の生涯をサポートし、良き友人として、仲間としてその人を支えるという医療。病気に向かい合い、地域を考え、健康のために環境を、そしてシステムを変える医療。WHO（世界保健機関）はその様な医療への関わり方をOttawa charter for health promotionとして世界に示しました。さらに、そこに積極的に参加する医療機関に対してHealth promoting Hospitals and Health services（健康増進活動拠点病院：HPH）と言う認定を行い、グローバルネットワークを形成しています。

【プログラムの特徴】

地域に密着し「家族」「居住」「Health promoting」をテーマとして研修を行います。

最終目標は地域と共に生きる医師になることで、そのために家庭医あるいは家庭医的病院総合医としての力を持った人材に育てます。更に当院はWHOのHealth Promoting Hospital Networkに参加しており、世界的視野を養うため年一回のHPH international conferenceに家庭医的観点からみた地域健康増進について、テーマを選択し演題発表する事を原則とします。

地域・社会を知るための研修として、生協組合員と共に地域健康増進（地域のhealth promotion活動：生協班会への参加、生協組合員による学習会への参加などを含む）を行います。

また診療所研修と共に、訪問看護ステーションで看護師指導による在宅訪問も行います。更に、小児科領域では虐待など小児の置かれている過酷な状況を学ぶため保健相談所、児童相談所一時保護所、児童保護施設での健診を行います。更に、認知症学会関連研修施設である事を利用し、高齢者医療として認知症学について学ぶ。また、関連して地域の精神保健衛生について精神科医と共に学びます（近隣精神科病院認知症病棟見学、保健相談所も利用）。

♣女性医師が働きやすいような工夫／子育て中の女性医師を対象に短時間常勤制度があります。通常より短い勤務時間や当直の免除など、働きながら子育てを継続できる環境を整えております。詳しくは担当者までご連絡下さい。

◎連絡先／東京保健生活協同組合 大泉生協病院 〒178-0063 東京都練馬区東大泉6-3-3
TEL：03-5387-3111 FAX：03-5387-5511 E-mail：ohgane@thoken.or.jp 担当者：大金 貴正

PG-31 河北医療財団 東京・杉並家庭医療学センター 家庭医後期研修プログラム

河北総合病院の持つ豊富な臨床研修の経験と環境を活かし、東京・杉並家庭医療学センターでは「地域で求められる医師」としての「家庭医療専門医」を養成するための教育プログラムを運営しています。

家庭医とは、Generalistとして幅広い知識と技術を修得し、年齢・性別・疾患を問わずに、患者の相談に乗り、適切で全人的なプライマリ・ケア（初期診療や継続診療）を実践する医師です。また、患者だけでなく、その家族、地域を巻き込んだ医療・ケアのあり方を考え、適切な介入をする能力を備えています。当プログラムでは、急性期総合病院（河北総合病院）、診療所（河北サテライトクリニック）、外部研修（総合診療、緩和医療、僻地医療など）の3つの臨床実践を通して、家庭医に必要な技術・能力を身につけます。

* 総合病院での各専門科研修（内科・小児科・整形外科・皮膚科・ERなど）*

臨床研修病院・地域支援病院として、長い歴史をもつ河北総合病院でのローテーション研修。内科強化コースを中心とした急性期医療&救急医療についての知識、技能、態度を修得します。また、必修科目である小児科研修をはじめ、希望に応じて整形外科、皮膚科などの外来研修を組み込むことが可能です。

* サテライトクリニック研修 *

月平均外来患者数 2,500名で、30～40代の患者も多く、2割が初診、8割が再診診療。初診患者を適切に診察し、診断、そして初期治療する能力と共に、継続して診る力を得ることを目的としています。また、健康診断、小児予防接種などの予防医学の研修にも力を入れています。また、当センターは訪問看護ステーション、居宅介護事業所、地域包括支援センターなどの部署を有し、包括的にそしてチーム連携（IPW）を重視した地域に根ざした在宅医療を実践しています。在宅患者数60～70名、月平均100件以上の訪問診療。悪性新生物、脳血管疾患、心疾患、呼吸器疾患、神経難病患者の在宅療養を支援しています。また、日本在宅医学会 在宅医療専門医研修施設および、日本緩和医療学会 認定研修施設となっており、在宅医学と在宅緩和ケアの普及に努めております。

* 外部研修 *

各研修医の希望と臨床経験に応じて、外部連携医療機関で緩和医療、総合診療、僻地医療研修などを経験することができます。研修期間中に、将来の自分の家庭医としての方向性を見いだす機会として、1～3ヶ月を外部研修にあてる事が可能です。

♣女性医師が働きやすいような工夫／非常勤として研修することも可能、クリニック併設の託児所あり

◎連絡先／社会医療法人 河北医療財団 東京・杉並家庭医療学センター
〒180-0001 東京都杉並区阿佐ヶ谷北1-3-12 河北サテライトクリニック
TEL：03-3339-2197 FAX：03-3339-3604 E-mail：kenshu-jim@kawakita.or.jp 担当者：小林・酒井

PG-32 神奈川県立足柄上病院家庭医療後期研修プログラム

大都会横浜のイメージが強い神奈川ですが、横浜から一歩外へ出れば、丹沢の山々を代表とする自然に満ち溢れたのどかな風景が広がります。そんな神奈川の県西部の地域医療を担う足柄上病院で家庭医療、総合診療を学びませんか？ 臨床研修病院としての歴史は比較的浅いのですが、過去10年間神奈川県出身の自治医科大学卒業生の初期研修の場として、また横浜市立大学のたすき掛け研修病院としての実績があり、このたび、本格的な後期家庭医・総合診療医の後期研修に参入することになりました。対象である一市五町および小田原市、秦野市の一部、計10万人の医療圏はまさにオンゴーイングである超高齢化社会が10年早く進んでいる地域であり、今後の日本の医療の問題点を生物学的、社会的、心理学的にいち早く学ぶことができます。合い言葉は、ハイブリッド型家庭医の育成です。昨今、家庭医-病院勤務医間での相互理解の欠如が、患者さんへのよりよい医療の障害となるケースが多く見受けられます。シームレスに患者・患者家族が望む治療・ケアを遂行できる家庭医の素養を身につけることが最大の目標です。家庭医経験なくして病院勤務医は育たず、病院勤務医経験なくして家庭医は育たずと我々は考えます。さらに、家庭医療の理論を身につけることはさることながら、場を選ぶことなく通用する臨床推論能力、初期救急対応能力、基本的診療能力の涵養を目指します。また、当院は地域の特性を十分に考えた医療を行っていますが、地域医療のガラパゴス化が起これば指導医自ら研鑽を続けています。神奈川の外れではありませんが、東名大井松田インターがすぐそばにあり、最寄りの新松田駅は小田急ロマンスカー一号が停車、新幹線小田原駅も近く、院外学習に出かける際の交通手段も大変便利な環境です。「当たり前前」の事を「当たり前」にできる医師そんな医師としての一歩を我々とともに歩もうではありませんか。

◎連絡先/地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立足柄上病院
〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領866-1
TEL : 0465-83-0351 FAX : 0465-82-5377 E-mail : mota.ashikami@gmail.com 担当者 : 太田 光泰

PG-33 群馬家庭医療学センター 家庭医療後期研修プログラム

【当プログラムの特徴】

- 2014年度からは Ver2.0に準拠したプログラムとなりました。県内は前橋赤十字病院、高崎総合医療センター、県外は筑波メディカルセンター、栃木医療センター、佐久総合病院にもご協力いただき、研修医の個別の目標や要望に応じて、様々なフィールドを選択することができるようになりました。
- 2014年2月現在で、群馬県唯一の日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラムです。
- 県内4つの協力型関連病院、複数の診療所があり、規模の異なる医療機関での役割の違いや各地域の特色に合った医療を経験できます。
- 各診療所・病院が、地域医療を担ってきた歴史をもち、在宅医療、保健予防活動などを展開し、プライマリ・ケア医を育ててきました。地域の保健医療福祉サービスの理解など、プライマリ・ヘルスケアの視点を身につけるのに適した環境です。
- 月に2回、指導医とレジデントによる振り返りを行っております。
- TV会議システム、Dropbox、Gmail、Google ドキュメント、Facebook を、振り返りや知識の共有に活用しています。
- 女性医師・家族持ち・子育て世代も多く、ワークライフバランスを重視した環境を、プログラムをあげて支援しています。
- 2013年より在宅フェローシップコースを立ち上げました。「指導医養成」、「実践者」のフェローシップコースと合わせ、専門医取得後の継続的なキャリア形成を支援します。

【主な施設紹介】

- 前橋協立診療所
在宅支援診療所として常時約180件（県内最大規模）の在宅患者を抱える。日本在宅医学会認定プログラム・研修施設。在宅医療フェロー1名在籍。
- 通町診療所
高崎駅近くの町中診療所。所長は亀田ファミリークリニック館山で研修。赤ちゃんからお年寄りまで診療する「家族のかかりつけ医」の実践の場。
- 前橋協立病院
199床の臨床研修指定病院。初期研修医を教えながら自らも学べる環境。急性期医療からリハビリ、在宅医療につなぐ幅広い研修が可能。産婦人科・小児科と連携し、マタニティケアも研修可能。
- 高崎中央病院
119床の小規模病院。「耳学問の会」発祥の地。指導医は、「当直医マニュアル」執筆者の一人。医学教育の法則化を推進中。
- 北毛病院
150床の小規模病院。高齢化地域の第一線で、プライマリ・ケアの実践はもちろん、「なんでも来る」救急も魅力的。外科との連携も強い。
- 利根中央病院
282床の単独型臨床研修指定病院。内科学会認定医取得も並行してチャレンジ可能。

◎連絡先/群馬家庭医療学センター事務局 〒371-0037 群馬県前橋市上小出町2-36-1
TEL : 027-234-8505 FAX : 027-235-5960 E-mail : g-kenshu@gunma-min.jp 担当者 : 澤田 智一

PG-34 宇都宮家庭医療後期研修プログラム

国立病院機構 栃木医療センターと栃木保健医療生活協同組合の宇都宮協立診療所・生協ふたば診療所のコラボプログラムです。背景の異なる医療機関同士が普段の地域連携を通して、自然発生的に出来上がりました。

■当プログラムの特徴

①ダイナミックな地域連携：病院－診療所間、院内各科間、多職種間などなかなか連携が難しい部分の連携をダイナミックに感じる事が出来ます。垣根は低く非常に仕事がしやすく、やりがいを感じやすい環境です

②診療所・病院の継続診療：1年目から病院外来と診療所診療を開始するため、3年間継続した外来・訪問診療を行うことが可能です。継続によって構築される医師－患者関係、患者家族との関係を大事にし、bio-psycho-socialな視点を培っていきます。

③病院総合医・家庭医両方の経験：急性期病院内科単科の病院総合医としての診療と、在宅支援診療所での外来・訪問・入院診療を同時期に経験する事で、病院総合医・家庭医双方の仕事を理解することが出来ます。ジェネラリストとして仕事をしたいけれど、病院・在宅どちらにも興味が…というちょっと迷っている人にお勧めです。

■病院・診療所の特長

病院は、300床規模の中規模地域急性期病院であり、様々な疾患分野を総合的に担当する内科部門です。年間入院症例数は1000例前後。後期研修医の受け持ちは150－200症例／年前後です。ホスピタリストが経験すべき症例・手技を網羅的に経験できます。豊富なカンファレンスによるフィードバック体制があり継続的に学び続ける事ができます。院内各科研修も可能で、家庭医として必要な他科領域の経験を、病院の専門医に教わりながら習得することが出来ます。診療所は、19床の有床診療所と無床の診療所で、比較的規模が大きく約250人の在宅患者さんの療養を支援しています。法人内に、訪問看護ステーションや地域包括支援センター、デイサービスセンターもあり、地域保健全体に目を通す機会となります。家庭医として外来医療、在宅医療、小児医療、一次救急の他、生活協同組合である特色を利用して、地域での健康講話や患者さんの生活環境や労働環境など社会的背景を考慮しての診療が経験できます。

♣女性医師が働きやすいような工夫／国立病院機構では、母性や育児を支える各種休暇・休業制度を設けています。具体的には「出産・子育てハンドブック」を作成しており、女性・母性保護規定で、休暇や業務負担軽減、就業制限などについて具体的なサポートを提案しています。

◎連絡先／独立合成法人 国立病院機構 栃木医療センター 〒320-8580 栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37
TEL：028-622-5241 FAX：028-625-2718 E-mail：tyabuki@tochi.hop.go.jp 担当者：矢吹 拓

PG-35 立川相互病院 家庭医コースプログラム

2016年末、立川駅北口500mに新病院オープン！
北米型 ER と24時間対応在宅医療で都市型地域医療の実践家を目指そう！

★立川相互病院概要

- 東京民医連センター病院350床・2次救急告示病院（救急車：3700件／年、救急患者数：1万3千人／年）、内科（総合診療科、各専門科）、外科、整形外科、小児科、産婦人科、皮膚科など26科、常勤医師76名（内、女性医師23名）、プライマリケア連合学会・日本内科学会をはじめとする各種専門領域の学会認定施設。
- 付属診療所11カ所（うち教育診療所3カ所に家庭医療専門医2名、在宅医療専門医1名を配置）

★研修内容

- Step 1 総合診療科病棟で、内科の力を磨く。研修医指導で教育力を付ける。
- Step 2 救急外来での診療を継続し、救急対応のブラッシュアップ。
- Step 3 訪問診療を継続し、担当患者の入院主治医も担当。在宅・病院での看取りまで深くかかわる。
- Step 4 病棟に慣れてから、病院付属クリニックでの一般外来で、急性期疾患の鑑別から慢性期まで幅広く診療。
- Step 5 4－5年目には関連診療所で研修（バックアップ体制あり）。
- Step 6 横断的診療のチーム参加や、専門分野研修でサブスペシャリティーを持って活動。
- Step 7 勉強会への参加、学会発表を行い、知識をアップデートする。
- 病棟研修：総合診療科 (<http://www.t-kenseikai.jp/tachisou/medical/synthetic.html>) を中心に、内科専門科や他科研修も可能。専門各科の充実したコンサルト体制あり。横断的診療分野への関わりと資格取得を目指す。週1回総合カンファレンスあり。
- 救急研修：北米型 ER で週1回救急外来を担当。救急カンファレンス月2回・M & M カンファレンス月1回実施。日当直は月4－5回程度。
- 在宅・外来研修：訪問診療を週1回以上継続。診療所と病院の外来を継続して行なう。週1回外来カンファレンスを実施。
- 院内 CC 月3回、CPC 月1回。他病院総合診療科との合同カンファレンス、リウマチカンファレンスなど院外交流も盛んです！
- 家庭医療専門医のみならず、日本内科学会・内科専門分野等の専門医資格が可能です。

★処遇 常勤医師

給与：月額 3年次421,960円、賞与年2回、休日：4週6休、有給休暇、夏期・年末年始休暇。年2回まで学会出張は病院負担。他、講習会や学会発表時病院負担制度あり、学会年会費1学会病院負担あり

♣女性医師が働きやすいような工夫／当院常勤医の3割は女性です。産休育休あり（イクメンもいます）、保育所完備、週4日勤務など正規職員としての勤務形態の工夫が出来ます。

◎連絡先／立川相互病院 〒190-8578 東京都立川市錦町1-16-15
TEL：042-525-2898 FAX：042-525-2893 E-mail：takeno@tachisou.or.jp 担当者：医局（担当 事務部長 竹野）

PG-36 山梨民医連甲府共立病院群家庭医療プログラム

●施設の特徴

当プログラムは山梨県で唯一の家庭医を養成するプログラムです。

- ・甲府共立病院（283床）…研修指定病院、内科学会教育病院に認定されています。総合診療部や多くの専門科があり、研修のセンター的役割を担っています。総合診療部では、内科の総合的力量を高めるとともに、初期研修医の教育に携わることができます。内科学会の教育病院でもあるため、ここで1年間内科研修を行うことにより、内科認定医の取得が可能です。
- ・巨摩共立病院（151床）…市の中核病院です。一般病床、回復期リハビリテーション病床、療養病床があります。在宅療養支援病院として、ターミナルケアを含めた在宅医療にも力を入れています。
- ・石和共立病院（99床）…50床の回復期リハビリテーション病棟があります。リハビリテーション科専門医のもとで、リハビリテーションの研修を行うことができます。
- ・診療所…県内各地に6つの診療所があり、3つが在宅療養支援診療所を取得しています。各地域で地域に根差した医療を展開しています。

●当プログラムの特徴

- ・患者さんの抱えるどんな問題にも真摯に向き合う医師を養成
- ・救急医療から在宅まで継続した医療
- ・急性期病院から診療所まで様々なフィールド
- ・患者さんと家族をチームで支える医療
- ・後期研修委員会と家庭医部会による手厚いサポートと評価
- ・研修医自ら作り上げる研修

●研修目標

地域において質の高いプライマリ・ケアを提供し、地域の人々の健康を増進するための幅広い知識・技能・態度を習得する。

●指導・評価体制

月2回の家庭医部会と年2回の家庭医部会合宿で、学習会や症例検討会を行い、家庭医としての学びとポートフォリオ作成をサポートします。また、月1回行われる後期研修委員会では、個々の到達度や研修内容を発表し、指導医から評価を受け、研修内容や改善点について話し合います。

◎連絡先／甲府共立病院 〒400-0034 山梨県甲府市宝一丁目9-1

TEL：055-226-3131 FAX：055-226-9715 E-mail：ishi@yamanashi-min.jp 担当者：平澤 大地

PG-37 恵寿家庭医療研修プログラム

1. 米国家庭医療専門医による教育

3年間を通して米国家庭医療専門医・老年医学専門医の下、毎週外来診療を実践する。診療後はすべての症例について指導医と振り返り、学習項目を確認する。また診療中でも、所見や手技、治療方針についてその場で指導を受けることができる。

2. ウィメンズ・ヘルスに強い

3年間を通して家庭医療外来において産婦人科のプライマリ・ケアを提供できる。家庭医療外来は産婦人科医と一体的に運営されており、家庭医と産婦人科医双方より指導を受けることができる。当プログラムにはALSO（産科救急講習会）インストラクターが複数所属し、研修終了後に分娩管理が実践できるレベルまでトレーニングを受けることができる。

3. 最大限に家族全体を継続的に看る

3年間を通して小児を含めた患者家族全員の医療を提供できる。自分の担当する外来、在宅患者が入院となったときも、病院家庭医療スタッフのバックアップにより、通常の診療を継続しながら主治医として入院診療を行える。研修医が担当する妊婦については検診だけでなく、分娩時には自ら分娩介助を行う。産まれた新生児についてもその時点から診察を開始し、その後も母子ともに継続して外来診療を行える。

4. 豊富な教育資源

毎日症例検討会を行い、臨床推論や患者の総合評価、効果的な介入について研鑽する。曜日ごとに各診療領域のミニレクチャーも行われる。院内ではすべての端末からDynaMed、UpToDate、メディカルオンライン、主要なオンラインジャーナルが無料で利用でき、日常診療、カンファレンスにおいて活用できる。また、ALSOをはじめとしたハンズオンセミナー、外部講師を招いた講習会が年間を通して開催される。

♣女性医師が働きやすいような工夫／出産・育児で医師の診療内容の一部でも諦める必要のないプログラムを目指している。すなわち、カンファレンスは定時内に行われ、外来診療のみでなく入院診療も定時以降は引継ぎ、当番でない夜・週末は完全にフリーになることができる。育児については宿舎近くに保育園があり、一時預かりなど柔軟に対応してもらえる。院内には病児保育室「あんず」も設置されている。院内では、女性医師専用仮眠室、休憩室が設置されている。生活全般については、病院、宿舎周辺にスーパーや主要な専門店が集まっており、院内にはコンビニが24時間オープンしていて、仕事と家事が両立しやすい環境にある。

◎連絡先／恵寿総合病院 家庭医療学センター 〒926-8605 石川県七尾市富岡町94番地

TEL：0767-52-3211 FAX：0767-52-3218 E-mail：family@keiju.co.jp 担当者：吉岡 哲也

PG-38 金沢城北家庭医プログラム

—「金沢」で家庭医療をする—

城北病院は、金沢駅から徒歩10分のところにある石川民医連のセンター病院です。開設して60年“ここで生きたい”という地域の人たちの願いにこたえる医療を実践し続けています。

地域医療の歴史ある石川民医連グループには、長く通院されている方、またその療養を支えるサービスを提供する施設が、金沢市内だけでなく能登半島の輪島から加賀まであり、多様な地域医療の中で家庭医研修ができます。多くの患者会、地域住民が主催する健康づくり班会、それらを主催する友の会（病院の応援団）の方々と住み続けられるまちづくりと一緒に取り組むことを通して、住民・地域の視点をより身につけることができ、おのずと自分が目指すべき医師像が見えてきます。

家庭医療が目指すべき5つの基本が日常診療の中で、試され、生かされる臨床の場です。

一緒に「金沢」で家庭医療をやりましょう。

♣女性医師が働きやすい工夫／城北病院は女性に優しい病院を目指し、環境を整備しています。週休2日制、平日当直明け休日保障、夏期・冬期休暇などの制度の他に、子育て家族の看護・介護に関する支援として、院内保育所、病児保育、日当直免除、看護・介護休暇、育児時短制度などを設け、女性が働きやすい環境を女性の意見を聞きながら整備しています。男性医師が子育てに参加する支援もっており、育児休業の取得や時短勤務の実績もあります。

A 医師：育児時短制度を利用し勤務、家庭医として診療所の副所長を担い業務中

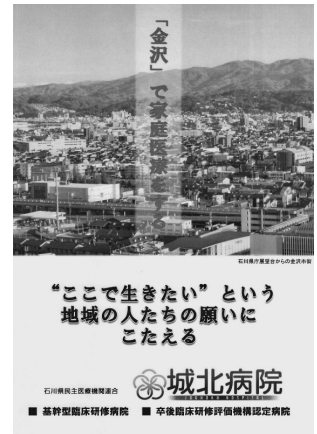
B 医師：出産後一旦離職後、職場復帰。育児中心にしながら週2～3単位外来診療

C 医師：育児休業・時短制度を利用しながら3人出産。現在は育児中心に週3単位小児科診療

◎連絡先／公益社団法人石川勤労者医療協会 城北病院 〒920-8616 石川県金沢市京町20番3号

TEL：076-251-6111 FAX：076-252-5881 E-mail：ishikensyu@johoku.jp

担当者：医局 医師研修担当 洲崎みゆき



PG-39 徳洲会地域家庭医療レジデンシープログラム

徳洲会地域家庭医療レジデンシープログラム

私たちのプログラムのユニークさは研修の幅広さと多様な経験にあります。例えば、当センターでの一般家庭医療、在宅診療、女性医療、小児医療、精神医療、予防医療に加え、定期的な離島（屋久島・徳之島）医療、ラオス大学家庭医療科・ブルガリア徳洲会病院を通しての医療活動、英国・米国の大学での短期研修、などが選択研修に入っています。私たちは病院で待つ医療ではなく“出て行く医療”を実践するため地域、離島、海外にまでその活動範囲を広げています。

私たち徳洲会家庭医は病院の内科診断総合医ではなく、質の高い医療を世界中どこへでも、それを必要とする全ての人に提供できるよう、全科型家庭医としての修練・トレーニングを心がけています。21世紀の家庭医は世界とつながった地域医療をする必要があります。将来地元で開業するにしろ、地域で信頼される医療を提供する為には、海外での経験、離島での経験がきつと役に立つと信じています。私たちの研修プログラムは家庭医としての自分を発見する為のプログラムです。外を見てやっと足下が見えてきます。様々な経験から学ぶ人間としての成長、それがきつと家庭医としてのやりがいが増してくるでしょう。研修中きつと英語を使うチャンスもずーっと増えるでしょうし、将来 USMLE にチャレンジしたい方も大歓迎です。是非私たちの仲間になって、日本の家庭医療をもっと患者さんの気持ちに寄り添える広い心を持った、そして確実な技術を持った家庭医の医療にしようじゃありませんか。さあ、21世紀の Family Physician を目指して、Come and join us, Tokushukai Family Medicine Program !

一度見学に来て下さい。そして夢を語りましょう。

センター長／プログラムディレクター 佐野 潔

【研修ローテーション例】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	家庭（オリエンテーション含む）		婦人	小児（健診予防接種含む）			内科（老人、在宅、緩和、健診）					
2年目	家庭（離島研修、海外研修）						産・周産期	皮・泌	外科	整形	選択	
3年目	家庭（ラオス）	眼・耳	精・放	選択	家庭（屋久島／徳之島）			選択	家庭			



◎連絡先／榛原総合病院 〒421-0493 静岡県牧之原市細江2887-1

TEL：0548-22-1131 FAX：0548-22-6363 担当者：岸端、翁長（E-mail：kenshu-c@tokushukai.jp）

PG-40 三重大学家庭医療学プログラム

三重大学家庭医療学プログラムは、**世界の家庭医療プログラムと互角に戦える数少ないプログラム**です！

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/soshin/index.htm>

三重大学家庭医療学プログラムの「売り」は以下です！

- ・ **ジェネラリスト研修のために必要なすべてのタイプの医療施設を用意！**⇒三重県立一志病院（地域志向のケアを徹底研修！整形も研修可）、亀山市立医療センター（あらゆる臨床手技を身に付けられる体育会系医療施設！）、名張市立病院（どんな年齢の患者もどんと診療していく全方向型総合医研修！）、高茶屋診療所と津ファミリークリニック（未来のプライマリ・ケアを意識した米国式都市型診療所！）、三重大学病院（あらゆる初診患者を診て家庭医療の基盤形成！）、その他
- ・ **百戦錬磨の優れた指導医を多数用意！**⇒各施設に、全国で名前が響き渡っている指導医が多数常勤。しかも鮮明テレビ会議で各医療施設が連結、すべての指導を共有可。
- ・ **研修に必要な施設や機器を最大限に用意！**⇒すべての医療施設に UpToDate や DynaMed、家庭医療に必要な全書籍、医療面接撮影用ビデオを設置、研修に必要なすべてのものがある！
- ・ **家庭医療の教育や研究を徹底的に身に付けることも！**⇒希望者は、正規の研修を受けつつ、そして給与をきちんと受けながら、2つの家庭医療学の博士課程：教育者としての家庭医になるための「**アカデミック GP 教育コース**」、統計学、疫学、質的研究など家庭医の研究者として必要な研究能力をマスターする「**総合診療のための PhD コース**」を受講可能。医学博士号を取得！国際学会でも発表！
- ・ **すばらしい演者を招き、頻繁に講演会実施！**⇒日本全国、そして世界から広く演者を招き、頻繁に家庭医育成に資する講演を実施。
- ・ **比較的高い給与！**⇒ほとんどの研修施設では給与が高めに設定。
- ・ **研修開始時の卒後年数は不問！**⇒初期研修終了後はもちろん、臨床経験を積んだ医師でも研修可！
当プログラムに少しでも興味のあるあなた、**気軽に電話やメール**でご相談を。**施設見学も随時受け付け中！**



♣ **女性医師が働きやすいような工夫**／出産や育児など、状況によってカリキュラムや活動時間帯に配慮。また研修施設に病児保育・24時間保育（曜日による）が可能な保育施設が設置。男性配偶者のワークライフバランスも十分に考慮。

◎ **連絡先**／三重大学大学院医学系研究科家庭医療学（医学部附属病院総合診療科） 〒514-8507 三重県津市江戸橋2丁目174
TEL：059-231-5290 FAX：059-231-5289 E-mail：fcm@clin.medic.mie-u.ac.jp

担当者：三重大学家庭医療学プログラム プログラム責任者 竹村 洋典

PG-41 郡上市「まめなかな」家庭医療後期研修プログラム

みなさま将来のどんな医師を目指していますか？大病院の専門医ですか？中核病院の医師ですか？我々は、このプログラムを通して、責任を持って「診療所で働く医師」を育成致します。

当地域の特徴は、住民が中心となって策定した保健計画に沿って、地域医療を推進していることです。中核である保健計画「まめなかな和良プラン21計画」は、PRECEED-PROCEEDモデルを応用して、地域住民のニーズ、意見を通して目標設定を行っています。後期研修の先生方も策定過程、プログラム推進、プログラム評価に積極的に関わることによって、地域コミュニティをケアする能力、住民への疫学的アプローチを学習することができます。

研修の場である郡上市は、病院及び診療所といった医療施設を持ち、加えて保健業務や福祉事業をする担当課と連携するなかで健康づくり計画や医療計画の策定及び保健事業に幅広く携わることが出来ます。

その一方、家庭医が身に着けるべき基本能力を習得することができます。総合医療的な診察技法、自己学習能力、EBMや情報収集能力、慢性疾患の管理、行動変容、コミュニケーション技法、在宅医療、高齢者包括家族指向のアプローチ、家族背景の理解などが学習できます。

また、教育の面からは、毎年、地元岐阜大学及び他県から医学生、初期研修医受け入れており、実践できる機会に恵まれていると考えております。

地域で研究活動を行うこともできます。我々の地域は、ほぼ住民全員のデータベース（疾患の罹患も含めた）を保有しており、質の高い疫学的研究が可能だと考えます。研究を通して、evidenceがどの様に作られるか、論理的な文章の書き方、仮説形成的な思考法の訓練、統計解析の方法を学習することができます。

以上、地域でできることをたくさん提供します。是非、みなさんとともに地域医療を楽しみましょう。

♣ **女性医師が働きやすいような工夫**／複数医師が勤務すること、外来／入院／健診といった業務が多義にわたることから、育児、出産の際にはある程度の勤務の融通をきかせることができます。

◎ **連絡先**／郡上市地域医療センター国保和良診療所 〒501-4595 岐阜県郡上市和良町沢882番地

TEL：0575-77-2311 FAX：0575-77-2376 E-mail：hideohirose@h8.dion.ne.jp 担当者：廣瀬 英生

PG-42 静岡家庭医養成プログラム

静岡家庭医養成プログラム（SFM）は少子高齢社会で輝ける“明日の家庭医”の養成を目指しています。明日の家庭医（Tomorrow's Family Physician）とは、以下のことができる家庭医です。

- ① 家族ぐるみのかかりつけ医になる（小児科、産婦人科、救急医療、在宅ホスピスを含めた全科診療ができる）
- ② 患者中心の医療ができる（bio-psycho-social approach もできる）
- ③ グループダイナミックスを理解してグループ診療ができる
- ④ 高齢者医療・福祉において中心的役割を担うことができる

その為には、内科を中心とした研修以外に小児医療、救急医療、在宅ケア・在宅ホスピス、妊婦健診・分娩・婦人科診療、患者中心の医療、行動科学など広範囲な研修を受ける必要があります。

SFMでは、内科や家庭医療科、小児科、産婦人科は各学年にわたって繰り返し研修出来るようにプログラムを工夫していますので、自分の不足している臨床能力を振り返りながら着実にレベルの高い診療能力を身につけることができます。また、外来研修でも1例1例プリセプティング（指導）を受けることができますので、エビデンスに基づいた医療を学ぶことができます。

このような研修を3年間受けたレジデントは欧米並みの実力を身に付けた家庭医に育ち、地域住民や行政の人たち、あるいは臓器専門医からも高い評価を得ています。

さらに、シンガン大学に2週間の研修に行くことができます。

SFMについてもっと詳しく知りたい方はホームページをご覧ください。 URL:<http://www.shizuoka-fm.org/>

♣女性医師が働きやすいような工夫／妊娠、分娩、育児休暇を十分に取ることができます。また、復帰する場合も託児所があり乳児を預けながら研修あるいは勤務を続けることができます。

◎連絡先／菊川市家庭医療センター 〒437-1507 静岡県菊川市赤土1055-1

TEL：0537-73-5551 FAX：0537-73-5557 E-mail：sfm@tenor.ocn.ne.jp 担当者：宮下 香実

PG-43 福井県家庭医コース

福井県家庭医コースでは、単に家庭医としての知識・技術・態度の獲得のみならず、10年先を見据えて、自分で知識をアップデートできる情報収集能力および情報提供能力の獲得を目指した教育を主眼に置いている所が特筆すべき点と言えるでしょう。多彩な文献を収集し、かみくだいたわかりやすい自分の言葉で情報を発信する、つまり患者教育や研修医・看護師教育を上手くなってもらいます。自らが知識をアップデートし、うまく情報を提供できることで、将来どこで働こうと、solo-practice になっても自信を持って自己研鑽できるようになります。

具体的には Off duty hours を設け、月に2回集中的に勉強会を開催します。課題や資料はWEBを通じて提供されます。Journal club では2ヶ月前から準備に入り、課題に対して文献（>100）・画像・動画を収集し、それを取捨選択し、知識の整理と共に、初期研修医を指導し、「3分に1回笑える・うなる」スライド作りの経験を積んでもらいます。

また地域で即戦力になるための実践救急に強いプログラムを中心にすえつつ、特に地域で必要な内視鏡検査や整形外科的手技、小児診察に精通し、「使える」家庭医を目指します。地域に必要なものは地域でしか獲得できない事も本当であり、地域に根ざした研修を豊富に取り入れています。

合言葉は「人に優しく、自分にはもっと優しく」で、トレーニングも各個人の特性にあわせた成長曲線を目指します。患者さんに対しても性急な変化を望んでは失敗することがあります。患者のペース、研修医のペース、看護師のペース、そして自分のペースにあわせて、時間を味方につけた診療ができるようなマインドを育てたいと思います。

どうですか？一緒に泣いて笑って癒される家庭医修行に励んでみませんか？⇒ホームページ [福井県救急医・家庭医](#) 検索

プログラム責任者

福井大学医学部附属病院 総合診療部 教授 林 寛之

その気にさせる笑いの絶えないER総合診療！ 随時熱烈募集中！

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3

TEL：0776-61-8417（医局直通） FAX：0776-61-8127（医局直通） E-mail：hhayasi@po2.nsknet.or.jp

◎連絡先／福井県 〒910-8580 福井県福井市大手3-17-1

TEL：0776-20-0345 FAX：0776-20-0642 E-mail：doctor@pref.fukui.lg.jp 担当者：田原 雅典



PG-44 救急に強い総合医コース

総合診療医は慢性疾患だけを取り扱うわけではない。時々とんでもない救急が舞い込んでもびびらずに対処できれば、総合診療医として鉄壁の守りができるよね。外来のみならず、入院も含めて経験値を積み、内科系に留まらず、整形外科や外傷にも強い総合診療医を養成します。在宅医療や診療所研修も経験を積んでもらい、局所医（ローカリスト）ではないゼネラリストを養成します。まあ、臨床だけしているのなら現場で鍛えればいいけれど、何より大学という環境だから教育や「研究」「語学」にも力を入れていくからステキでしょ!? 海外の講師も毎年招聘して国際的に遊びに、じゃなく勉強できるようになっちゃいましょう。月1開催される豊富なトレーニングコースを教える側に回って参加しませんか? 初期研修医のいい兄(姉)貴分として教えると知識は2倍定着しやすくなるよ。ジャーナルクラブは文献の泉に浸ってエレガントで抱腹絶倒な(?)プレゼンテーションができるようになります。「穏やかな海では腕のいい船員は育たない」、「愛想のいいヤブ医者はいらない」、個人の資質に合わせたテーラーメイドな「ちょいつら」研修を目指します。2014年には語学センターもでき、「臨床留学」を考える人は是非来てください。また緻密な頭脳を持つあなたの臨床疑問に答えるための、「地域医療大学院」もスタートしたので、臨床研究もできます。目指すは①安全・安心を提供できる救急に強い総合診療医(知識・技術)、②笑いの絶えない職場環境クリエーター、③知識の泉の魅惑のプレゼンターです。みんなで大笑いする「悪の組織」の構成員大募集中です。少しでも興味が湧いたら、だまされたと思って、とりあえず見学に来てください。

♣女性医師が働きやすいような工夫/個人の家庭状況に合わせて時短で診療を行っています。チーム医療で診療を行うため家族の緊急事態にも対応しています。

◎連絡先/福井大学医学部附属病院 総合診療部 〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
TEL: 0776-61-8417 (医局直通) FAX: 0776-61-8127 (医局直通) E-mail: ykuroda@u-fukui.ac.jp
担当者: 黒田 有紀子

PG-45 名古屋大学総合診療科ジェネラリスト専門医養成プログラム <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/general/>

大学病院総合診療科、都市大規模病院～地域中核病院の総合診療部門および小児科、都市近郊型クリニック、辺地診療所など多彩な研修施設で研鑽を積むことで、幅広くかつ奥行き深いジェネラリストとしての基本的な臨床能力の習得を目指します。また、研修期間全体を通して名古屋大学総合診療科スタッフが責任を持って研修のマネジメントとサポートを行うとともに研修医のメンターとしての役割も担います。

本プログラムはこれまでに8名の修了生を輩出しています。修了生の卒業後のキャリアを提示します。

- ホスピタリスト(ドクターG)**: 後期研修中に病院総合医として揉まれた経験をもとに大病院総合内科でさらに研鑽を積んでいきます。他の研修指定病院の教育カンファレンスに指導医として携わることや、名大総診の幅広いネットワークを利用して国内留学を行うことも可能です。
- 家庭医**: 本プログラムの診療所研修では診療所運営に関する労務・財務管理能力を学びます。これらは地域で開業するための必須能力です。後期研修修了後ほどなくファミリークリニックや在宅医療施設を開業あるいは継承した者もいます。
- 研究者**: 臨床や教育を実践する中で生じた疑問の答えを探求すること、あるいは生じた興味をさらに追究することに魅せられた者は、本プログラムの最終学年あるいは修了時に大学院医学系研究科博士課程に進学します。名大総診は国内外の多くの優秀な研究者とのネットワークを持っています。在学中あるいは卒業後に海外留学を行うことも可能です。
- 教員**: 本プログラムは初期研修医や医学生に対する教育機会が豊富です。人に教えながら自ら学ぶという教育の醍醐味を知り、教育を本分にしようと考えた時に、大学の教員は一つの選択肢になります。後期研修修了後地域の診療所勤務を経て教員になった者や大学院で研究生活を送った後教員になる者がいます。
このように本プログラムの修了生には、ジェネラリストとしてのあらゆる道が開かれています。

♣女性医師が働きやすいような工夫/子育てと研修の両立を目指す女性医師を支援いたします。とくに大学病院での研修は、病棟主治医チーム制なので不在時のカバー体制が整っている、人員に余裕があるので日直や宿直および待機当番の免除が可能、また、院内託児施設の優先利用ができるなど、育児期間中も研修継続可能な勤務環境を提供することが容易です。本人のライフプランに合わせて大学病院での研修を組み込むよう配慮します。

◎連絡先/名古屋大学総合診療科 〒466-8560 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65
TEL: 052-744-2951 FAX: 052-744-2960 E-mail: juichi@med.nagoya-u.ac.jp 担当者: 佐藤 寿一

PG-46 とやま NANTO-RENKEI 総合診療医養成プログラム

【内容と特色】今年度より、多様な施設・指導医との連携でオーダーメイドの研修をうけられるシステムが富山に誕生しました！

昨年度3名の家庭医療専門医が生まれ、若手の力で活気づいているとやまへぜひいらしてください!! (写真はポートフォリオ添削会の様子です)

- ◆大学病院の総合診療外来で…じっくりフィードバックを受けながらがっちりと学べます！
- ◆地域の基幹病院で…在宅件数の豊富な地域で、多職種との連携をとりながら訪問診療・外来・入院診療を経験できます。病院をあげてチームで臨床研究にとりくんでいる施設もあります。



- ◆診療所で…家族、地域の文脈に配慮し診療。毎日、きめ細かい指導を受けられます。
- ◆その他…スタッフ SEA を定期開催し、困ったことなどもシェアしやすい雰囲気です。

学生（富山プライマリ・ケアを学ぼう会）／研修医との勉強会・まちの人との語りの場を主催していくこともできます。富山型デイサービスをはじめとした地域ケアとの連携・協働もできます。

- ◆全体として…3年間で日本中どここの一般病院・診療所でも戦力として働ける良医を育てます。

♣女性医師が働きやすいような工夫／女性医師・子育て医師が多く、急な休みもお互いにカバーし合っています（大学所属の医師は9人中4人が女性医師、9人中5人は子育て中）。女性医師に限らず、家族や生活を大事にする医師が多く、尊重されています（日当直は希望制、原則週末勤務はありません）。病棟はチーム制です。

【連携施設】南砺家庭地域医療センター、南砺市民病院、かみいち総合病院、社会保険高岡病院、飛騨市民病院、糸魚川総合病院、富山大学附属病院

※在宅24時間のまちなか診療所（富山市寄附講座：富山プライマリ・ケア講座）も数年後にオープン、将来は後期研修受け入れの予定です。

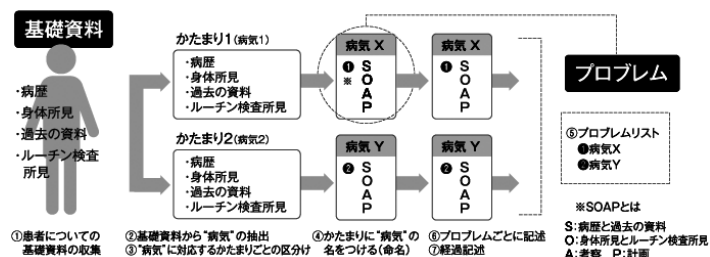
◎連絡先／富山大学附属病院 総合診療部 〒930-0194 富山市杉谷2630
TEL：076-434-7244 FAX：076-434-5071 E-mail：soshin@med.u-toyama.ac.jp
担当者：山城 清二（医局秘書：永井 梓）

PG-47 MGH 総合診療医養成プログラム

身体所見や病歴聴取をもとに臨床推論に重点を置いた教育を行っています。毎朝の早朝勉強会に加え、著名外部講師の招聘、学会報告会による情報のシェアなどを通じてこれらの能力のレベルアップに努めています。また毎週の総合内科カンファランスでの症例検討に加え、これとは別に週1回の研修医症例カンファランスを開催し、より細やかな教育が可能となっています。

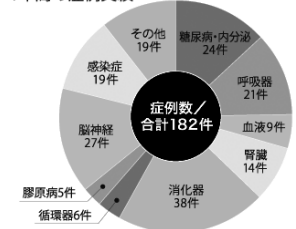


当院では、後期研修において、「総合プロブレム方式」採用した後期臨床研修を実践しています。プロブレムリストを作成することで、初期状況から経緯、結論までをロジカルに把握し続ける力を身に付けることができる。



2012年7月入職の後期研修医実績

1年間の症例実績



- ♣女性医師が働きやすいような工夫／Time：16時までや週4日勤務など時短勤務を個別に設定できます。

Duty：当院の当直は非常に人気が高く枠が足りないほどです。そのため、当直を希望されない医師は、引け目を感じることなく、当直をしなくても全く問題ありません。

Nursery：24時間受け入れ可能な託児所が敷地内にあり、病児保育も行っています。

Consultation：勤務条件や家庭の事情等についての相談窓口があります。また、認定医取得などに必要な症例等を優先して受け持てるよう配慮しています。

◎連絡先／松波総合病院 〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代185-1
TEL：080-3240-1674 FAX：058-388-4711 E-mail：hitoshi.zamma@gmail.com 担当者：残馬 仁

PG-48 赤穂市民病院家庭医療後期研修プログラム

ようこそ赤穂市民病院へ

特色：あそこにもここにも家庭医が！ 診療所で、病院で、施設で、地域で、どこでも活躍できる家庭医を養成

特色：ここだけですべて学べる！ 総合病院ならではの全科研修を提供します

特色：うれしい学習環境！ 他科専攻の後期研修医も一緒になって学習できます。院内WiFi完備。Uptodate・医学中央雑誌は病院購読のため無料でいつでも利用可能。研修医勉強会、英語勉強会、臨床研究勉強会、各種研修会、チームでの院内ラウンドなど多種多様な学習が可能

平成25年度認定 Ver.1準拠

プログラム責任者 一瀬直日（日本プライマリ・ケア連合学会専門医、認定指導医）

選択科目：一般外科、産婦人科、救急医学、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、消化器科、循環器科、整形外科

詳しくはホームページで → <http://www.amh.ako.hyogo.jp/new/sub/kateii.html>

住みやすさ抜群の赤穂へ 瀬戸内海の温暖な気候のもと、すくすくと家庭医を育てていきたいです

♣女性医師が働きやすいような工夫／

・病院併設の保育所あり（毎水曜日の夜間保育あり）。もちろん育休産休制度あり。大小さまざまな公園が多数整備され子供が飽きない町です。

その他にも育児中・育児後の復帰プログラムあり（平成23年度より内科非常勤医師1名が活躍中！）、女性医師を支援しています。

◎連絡先／赤穂市民病院 〒678-0232 兵庫県赤穂市中広1090

TEL：0791-43-3222 FAX：0791-43-0351 E-mail：issenaohi@yahoo.co.jp 担当者：一瀬 直日

PG-49 大阪家庭医療センター（OCFP）家庭医後期研修プログラム

【研修プログラムの概要】私達のプログラムは『自立した診療所の医師』（通称：外来の巨人）を目指すプログラムです。外来研修を通じて、幅広い疾患だけでなく、家族や地域を診る視点を養っていきます。当プログラムは家庭医専門医が複数、後期研修医も複数いることにより、広がりのあるディスカッションや研修医同士の共感なども行える若いパワーのある場が魅力です。このプログラムを卒業すれば、診療所だけでなく、中小病院でもオールマイティーに働ける力が身につきます。現在まで日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医試験合格率100%（5/5）です。

【研修3年間のカリキュラム】

- ・1年目 内科・小児科・在宅医療の基礎を築く：総合内科3ヶ月、小児科3ヶ月（耳原総合病院 or 淀川キリスト教病院）、領域別研修：6ヶ月（緩和ケア（必須）、精神、救急、整外、泌尿器、より選択）＋ワンデイバック（週1日の継続外来＋継続訪問診療）
- ・2年目 幅広い知識を作る。多彩な診療所で医師としての体力をつける：総合内科6ヶ月（副指導医を兼ねる、一部臓器別内科ローテも可）、外来ローテ“巨人ローテ”6ヶ月 のごと診療所、西淀病院、東大阪生協病院＋ワンデイバック（週1日の継続外来＋継続往診開始）
- ・3年目 自立した診療所医師として研鑽を積む。リーダーシップを学ぶ：診療所勤務（研究、プロジェクトを行う）
- ・3～5年の後期研修を通じての継続した勉強会：ドリームカンファレンス（ドリフ・カンファレンス）：全員集まって第2、第4週に実施。リモートカンファレンス：ネット回線を通じて、第1、第3週に実施。

【教育スタッフ】大島民旗（西淀病院院長、プログラム責任者）、石井大介（生協はなぞの診療所所長）、鈴木昇平（大正民主診療所所長）、中山明子（西淀病院地域総合内科）、野口愛（同）、花房徹郎（同）

♣女性医師が働きやすいような工夫／女性医師で育児中の方は、①児が3歳までは時間外の勤務の免除。病棟業務に就く場合は担当患者の考慮、午前か午後どちらかは病棟常駐。②児が3歳以上～小学校就学までは原則当直免除。③児を保育所、幼稚園送迎などで柔軟な勤務を希望すればフレックスタイム導入。などの制度があります。

◎連絡先／大阪家庭医療センター 〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 創建本社ビル2階

TEL：06-6268-3970 E-mail：banba@oskmin.com 担当者：番場 弘樹

PG-50 医療福祉生協連 家庭医療学後期研修プログラム・近畿

当プログラムは医療福祉生協連 家庭医療学開発センター（CFMD、センター長：藤沼康樹）のプログラムで、「東京」「東海」「瀬戸内」に次ぐ、4番目のプログラムです。

我々は以下のような家庭医を育てます。

1. 都市部診療所において、非選択的な外来医療、在宅診療、保健予防活動をバランスよくおこなえる家庭医療専門医に必要な能力を持つ。
2. 生涯学習者として自己決定型学習を実施できる。常に最新の情報にアプローチし、EBMを実施しつつ、反省的実践家としての家庭医らしい生涯学習をおこなうことができる。
3. さまざまな地域プロジェクトにかかわり、リーダーシップを発揮することができる。
4. 仲間として常に協同で学び、チームの一員としてその責任と役割をはたすことができる。
5. 研究者として臨床疫学、行動科学、地域指向性プライマリケアに関する研究や実践の基礎的能力をもち、地域の健康問題に対して科学的な視点でアプローチできる。
6. 指導医として学習者中心の臨床教育を実施できる。

カリキュラム概要

研修期間：3年間

都市型診療所を拠点とする家庭医に求められる内科、老年医学と小児科、緩和ケアの深い知識と技術の獲得を強調したローテーションスケジュールを組織します。行動科学、psychosocial medicine は通年的に学ぶ課題として設定し、その他の疾患領域は教育診療所研修期間中にエレクトティブ研修を設定しています。

カリキュラムの特徴

地域に貢献できる家庭医となる観点から3年間のプログラムを通じて一貫した Horizontal Curriculum を作成し実施しています。

- ① 診療所での継続外来・在宅診療（ワンデイ・バック）：都市型だけでなく僻地型の教育診療所もあり、様々なセッティングで経験を積むことができます。
- ② レジデント・デイ（週1度のレクチャー、Clinical Jazz、振り返り）
- ③ レジデント・セミナー（コアとなる領域の集中セミナー）
- ④ プロジェクト・ワーク（地域活動・研究プロジェクト）
- ⑤ オンラインでの診療コンサルテーションや、コーチングシステムの充実

募集要項は以下のサイトをご覧ください。

<http://www.cfmd.jp/index.php/2010-06-12-19-24-42/2010-06-12-19-26-24/2012-08-26-19-56-00.html>

♣女性医師が働きやすいような工夫／個人の理想とするライフワークバランスを尊重しフレキシブルな研修予定を構成しています。現在、1歳児の子育て中の女性医師レジデントが研修を積んでいます。

◎連絡先／尼崎医療生協 本田診療所 〒660-0077 兵庫県尼崎市大庄西町2-29-15

TEL：06-6416-0325 FAX：06-6417-6288 E-mail：takara@mx.miracle.ne.jp 担当者：森 敬良

PG-51 大阪市立大学医学部附属病院「総合診療・家庭医」後期研修プログラム

【内容と特色】後期研修医としての3年間で本人の希望を考慮して以下の施設で研修を行う。当院総合診療センターでの研修を中心として、本病院内の専門診療科、市民病院、関連病院、地域開業医との連携を密に行うことを特徴とした研修を行う。本プログラムにより専門医を取得し、この資格を基に総合診療医としてプライマリ・ケアの研鑽へ繋げることが出来る。

【到達目標】市民の健康に寄与する質の高い医療を提供し続けられる専門医としての総合診療医の育成

【プログラムの実施体制及び実施計画】後期研修医は当院総合診療センターに拠点をおき、以下の通り3年間で総合内科、総合外科、救急疾患、およびニーズにあった補完医療に対応するプライマリ・ケア研修を行う。

1 年 目：総合診療センターで6ヶ月、残り6ヶ月を大阪市大病院で内科、救急等の基本科目を中心に研修する。

2・3年目：総合診療センターでの研修、または地域中核病院に出向し、必要に応じたプライマリ・ケア研修を行う。また、プライマリ・ケア医として不足している領域を本院の専門診療科で研修し臨床能力を強化する。

*自分の将来像にあわせて、家庭医や一般病院の総合診療・救急医、大学病院総合診療医などを目指すためのトレーニングも可能である。

【医局活動】日々の勉強会や抄読会、関連施設医師を交えたカンファレンスや研究会、多施設の研修医を中心とした合同カンファレンスなど多くの学習の場を設けている。また、同大学大学院医学研究科総合医学教育学の臨床部門であり、シミュレーション学習を中心とした医学教育のプログラムを学生、研修医、病院スタッフに提供する役割も担っている。

♣女性医師が働きやすいような工夫／現在5名の女性医師が在籍しており、2014年4月から新たに1名の女性医師が当科での研修を開始する。女性医師が障壁なく活躍出来る場を提供することを目標に、結婚後や出産前後でも働き易い職場作りを目指している。特に妊娠中は体調に合わせたフレキシブルな勤務体系をとり、在籍医師全員の理解のもと業務の軽減を励行している。出産後の育児休暇も充分取得できるよう配慮しており、復帰後の勤務スケジュールも本人とよく相談した上で柔軟に対応している。実際に妊娠、出産、育児にかかわる女性医師が数名在籍しており、充分満足しているという意見をj得ている。

◎連絡先／大阪市立大学医学部附属病院 総合診療センター 〒545-8585 大阪府大阪市阿倍野区旭町1-4-3

TEL：06-6645-3797 FAX：06-6645-3796 E-mail：shutou@med.osaka-cu.ac.jp

担当者：首藤 太一 シウトウ タイチ



PG-52 奈良県立医科大学総合医療学 総合診療医・家庭医研修プログラム

奈良医大総合医療学（奈良医大附属病院総合診療科）では、「まず診る」にやりがいを感じる医師の育成を目指しています。総合診療医として、全身を意識した医療が出来る医師、患者背景を意識した医療が出来る医師、患者の心に寄り添う医師の育成を目指しています。

当科では、毎日研修医担当症例全例の振り返りを行っています。丁寧な問診、丁寧な身体所見をとり、しっかりと考えて診療していく姿勢を、外来の現場で、またその日の夕方の指導医2名以上のカンファレンスでの振り返りを通じて指導していきます。単なるケースカンファレンスでは得られない、どのように患者情報を取り、どのように診察し、どのように説明するかという一般外来診療のコツを学んでもらっています。ERの現場でも患者さんとの対話を意識した Narrative-based medicine が実践できることを目標に「しっかり診る」という姿勢を指導しています。

後期研修医は、希望科への数か月単位の研修が可能で、糖尿病センター外来・エコー検査研修などを週に数コマ、定期的に長期の研修を行うことも可能です。循環器内科で3ヶ月研修し循環器診療のレベルアップを果たした先生、週1回糖尿病センターの外来を担当し、大学病院のスペシャリストの指導を受けながら勉強している先生がいます。当、プログラムは平成25年度から開始しており、家庭医療研修として、奈良県立五條病院、県内へき地診療所、都市部クリニック等で研修予定となっています。

天理よろづ相談所病院や、県立五條病院、市立奈良病院、桜井市大福診療所（奈良民医連家庭医療後期研修プログラム）とも交流が盛んで、オール奈良での総合診療医・家庭医の育成に力を注いでいます。

奈良で「まず診る・しっかり診る」を実践し、幅広い一次、二次診療ができる医師の養成を目指しています。奈良にゆかりのある人もない人も大歓迎です。是非、一緒に総合診療をしましょう！

♣女性医師が働きやすいような工夫／当プログラムでは現在3名の女性医師が研修しています。病棟の担当は複数主治医制になっています。ご家庭の事情や体調などで、当直業務の回数減・免除など対応可能です。また、大学病院には、なかよし保育園という保育園が併設していますので、利用可能です。フレキシブルな研修が可能ですので、お気軽にご相談ください。

◎連絡先／奈良県立医科大学 総合医療学（奈良医大附属病院総合診療科） 〒634-8521 奈良県橿原市四条町840番地
TEL：0744-22-3051（内線：3471） FAX：0744-25-7657 E-mail：kym@narmed-u.ac.jp 担当者：吉本 清巳

PG-53 兵庫医科大学 総合内科・総合診療センター 後期研修プログラム

日本プライマリ・ケア連合学会後期研修プログラム（Ver 2.0）に準拠した後期研修プログラムを準備しています（認定準備中）。総合内科学講座を中心に、外来部門である総合診療センター、入院部門の総合内科、地域医療部門を担うささやま医療センター（大学附属病院）、及び院内各科との協力体制により、総合診療科専門医（プライマリケア認定医）もしくは内科専門医（総合内科専門医）取得に向けてのプログラムを準備します。特に、質の高い外来スキルと臨床研究スキルを重視しており、日々のピアレビューや様々な教育機会を通じて、3年間継続的に学習できます。3年間の研修が修了した後は、大学教員として後進の育成の他、臨床研究や海外留学、地域医療、臓器別専門診療科での更なる研鑽など、個人の希望に応じたキャリアパスを準備します。本学は夜間大学院制度を設けており、後期研修期間に大学院に入学することで、臨床医としてのトレーニングを中断することなく医学博士を取得することが可能です。

♣女性医師が働きやすいような工夫／当科では、外来枠も含めて交代制勤務としており、病棟管理についてもチーム制になっているため、女性医師に限らず、全てのスタッフのワークライフバランスに対応しております。育児期間に診療から離れる際には、臨床研究を積極的に奨励しており、生活ペースに合わせた研究活動で、臨床のアップデートと業績を積み重ねることができます。また、兵庫医科大学は、「短時間勤務取扱規程」を設けており、条件を満たせば週2日からの勤務が可能です。

◎連絡先／兵庫医科大学 内科学総合診療科 〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL：0798-45-6879 FAX：0798-45-6920 E-mail：tm@hyo-med.ac.jp 担当者：教授 森本 剛

	兵庫医科大学病院 総合診療センター-外来		
1年次 (卒業3年目)	本院 総合内科 6ヶ月	本院 内科系診療科 3ヶ月×2診療科	
	臨床研究 基礎トレーニング・データ解析		
	ささやま医療センター 総合外来		
2年次 (卒業4年目)	ささやま 総合診療科(内科) 6ヶ月	ささやま 整形 3ヶ月	ささやま 小児 3ヶ月
	臨床研究 データ解析・論文執筆／毎週の研究指導		
	兵庫医科大学病院 総合診療センター-外来		
3年次 (卒業5年目)	本院 総合内科 6ヶ月	本院 救命 3ヶ月	選択 1.5ヶ月×2
	臨床研究 データ解析・論文執筆・個人プロジェクト		

PG-54 阪南市民病院 救急・総合診療科 後期研修プログラム

当院は、平成23年に公立病院の民間による指定管理運営を開始し、平成25年には7階建ての新病院で新しい一歩を踏み出しました。大阪の辺境地とも言われるこの地では、在宅医療や終末期医療等、家庭医の広い知識や技術が求められます。185床の中規模病院のため、小回りが利き、各々の医師のニーズに応じたプログラムが組み、幅広くトレーニングができるため、確実にスキルアップに繋がります。さまざまな経歴を持った指導医から総合診療を学びませんか？是非一度、病院見学にお越し下さい。

〈対象〉卒後3年目以降の医師。後期研修修了以降でも大歓迎です。

〈期間〉3年のコースですが、短期間でも相談に応じます。

〈研修プログラムの目標〉内科系中心の救急・総合診療、小児科、外科、整形外科の対応を目指します。

〈指導医〉藤本尚（院長）、北方一成（部長）、内堀善有（副院長）

〈当院の医師について〉当科以外に、消化器内科1名、消化器外科3名、整形外科2名、小児科2名、麻酔科2名、歯科口腔外科2名が勤務しており、非常勤外来として、内科（糖尿病内科、肝臓内科、循環器内科）、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科があります。

〈研修内容〉救急・総合診療中心の研修となります。その他、下記内容を専門医、専門技師と共に積極的に行っています。また院外研修（最大3カ月程度）を数回行い、足りないスキルや経験を補うことも可能です。

現在の診療内容：救急外来、総合診療外来や病棟業務、小児科外来、上下部内視鏡検査、気管支鏡検査、心臓・腹部・体表エコー、消化器外科・整形外科手術介助、緩和医療、在宅医療（本年度から本格的に開始予定）

〈当直〉3～4回/月。当直明けは午前までの勤務です。

〈カンファレンス等〉

- ・月曜日 勉強会
- ・水曜日 入院症例検討会
- ・水曜日と木曜日 PCLS 早朝カンファレンス
- ・金曜日 看護師等と週末に向けての申し送り

知識や症例の共有のため、上記カンファレンスを行っています。その他、院外勉強会にも参加できるように、勤務調整を行います。

〈資格・学会等〉日本プライマリ・ケア連合学会、日本内科学会、日本救急医学学会等に参加しています。院内のコースとして、BLS、ACLS 施行中です。

♣女性医師が働きやすいような工夫／子育て中の医師は、常勤・医師短時間勤務制度（週30時間勤務）、院内保育や病児保育を利用しています。外来と検査のみの勤務も可能ですので、ご相談ください。

◎連絡先／社会医療法人生長会 阪南市民病院 〒599-0202 大阪府阪南市下出17

TEL：072-471-3321 FAX：072-471-6543 E-mail：k_hoppou@seichokai.or.jp（北方）/j_kanda@seichokai.or.jp（神田）
担当者：総合診療科 部長 北方 一成／総務課 神田 樹理

PG-55 洛和会音羽病院大津 FC 家庭医療後期研修プログラム

「日本の医療を支えるジェネラリストを育てる」ことを目標に2011年4月から始動した、比較的新しいプログラムです。洛和会音羽病院（京都市）と大津ファミリークリニック（滋賀県大津市）との合同プログラムです。“ジェネラリストの両輪”ともいえる家庭医と病院総合医（ホスピタリスト）の両者の能力を、いっしょに伸ばしていきませんか？

- 1) **伝統ある北米型総合内科研修**；北米型のホスピタリスト研修を受けられます。年間1200人（2011年総合診療科）の入院患者の診療を通し、診断推論・一般内科・感染症学などを土台から学べます。
- 2) **在宅医療を重視した診療所研修**；20代から100才までの在宅患者に対応します。近隣の急性期病院と連携しながら、在宅－救急外来－入院、と継続性をもった研修が可能です。
- 3) **屋根瓦式教育システム**；若手が集まる教育的環境。多数のレクチャー（朝レクチャー、症例検討カンファレンス、M&Mカンファレンスなど）、米国大リーガー医の招聘、京都 GIM カンファレンスなど。学びをシェアする文化をぜひ体感してください。
- 4) **“断らない救急”を掲げる ER**；洛和会音羽病院は2012年度から救急救命センターに指定。「断らない救急」を掲げる ER 型救急で多様な診療経験を積むことができます。

♣女性医師が働きやすいような工夫／

〈女性医師支援制度〉産休・育児休暇取得可（男性も取得可）、洛和会音羽病院保育園・病時保育、丸太町病院院内保育園の利用が可能（夜間保育はなし、休日・祝日の研修・勤務時に預けることが可能）、ワークシェアリング制度 女性医師限定・週2日から、時短制度 午前のみ勤務、9:00～16:00勤務等（状況に合わせて応相談）、時間外・休日オンコール免除、看護休暇年間10日間まで有給以外に子供の看護目的の休暇取得可能（男性も取得可）

〈その他の工夫〉※現在子育て中の女性医師が1名常勤で指導医として勤務中、勤務継続の為にしている工夫です。

子供の急な発熱・病氣罹患時、訪問診療・外来の予約変更・代診にて対応しています。上記のような女性医師支援制度は充実していますが、制度があるからといって容易に使えるというわけではなく、日頃からのスタッフとのコミュニケーションや自身での調整も必要となります。看護スタッフは子育て世代が多く、子供のことについて理解があり協力的です。

◎連絡先／大津ファミリークリニック 〒520-0033 滋賀県大津市大門通11-11 三井寺前

TEL：077-526-8239 FAX：077-526-8238 E-mail：jimucho@otsu-fc.jp 担当者：中場 基之（事務長）

PG-56 奈良民医連 家庭医療後期研修プログラム

奈良民医連家庭医療後期研修プログラムは数多くの診療所、中小病院、訪問看護ステーション、介護施設をフィールドに持ち、複雑な健康問題を持つ患者、家族、地域を対象とした診療を展開し学びを深め続ける家庭医を育てることを目指します。志を同じくする初期研修医、後期研修医、指導医やその他スタッフたちと一緒に、地域のニーズに応える力を学び取っていきける家庭医を目指しましょう！

【一般目標】診療所もしくは中小規模病院ではたらく家庭医/プライマリ・ケア医として、患者中心の医療、家族志向型のケア、地域志向型ケアを、介護・福祉・地域保健のネットワークの中で包括的、継続的に実践できるようになることを目指します。プログラム修了後も家庭医/プライマリ・ケア医として必要な「患者のケア」「医学的知識」「コミュニケーションスキル」「プロフェッショナルリズム」について生涯にわたって深めていくことができる態度、知識、技能を獲得します。

【プログラムの特徴】

○プログラムは診療所研修からスタート！

プログラム期間を通して家庭医/プライマリ・ケア医としてアイデンティティ、モチベーションを高めることを目指します。3年間をとおして継続的に診療を行い、かつ研修医自身の成長をサポートする診療所をベースとします。1、2年目は総合内科研修や小児科研修の他、中小規模病院での屋根瓦研修、各科専門領域のエレクトティブ期間とします。3年目は診療所研修を軸として研修の総仕上げを行います。

○家庭医療部会を毎月開催！

定期的に構造的な振り返りを行い、研修上の悩みを相談したり、先輩医師やベテラン医師からの指導を受けたり、ポートフォリオ作成促進、モチベーションを上げる機会とします。また指導医もそろって「家庭医療の視点」を磨きます。

○個性性を重視したプログラムの調整！



♣女性医師が働きやすいような工夫/勤務時間帯の調整、研修期間の延長なども含めてあなたの目指す医師像に最大限近づけるようプログラム内の調整を図ります。

◎連絡先/健生会 大福診療所 〒633-0067 奈良県桜井市大福240-1

TEL：0744-42-3059 FAX：0744-42-3159 E-mail：kentaroasakura@gmail.com 担当者：朝倉 健太郎

PG-57 岡山県全域 地域を支え地域を科学する 家庭医療後期研修プログラム

文部科学省の未来医療研究人材養成拠点形成事業に岡山大学と地域の医療機関が連携して参加し、「地域を支え地域を科学する総合診療医の育成」プロジェクトが採択されました。

岡山県全域を5つのエリア（①県南東部エリア、②県南西部エリア、③県北東部エリア、④県北中央部エリア、⑤県北西部エリア）に分け、教育リソースの多い①岡山県南東部・②県南西部・③県北東部と、教育リソースの少ない④岡山県北中央部・⑤県北西部をバランスよく組み合わせることで、岡山県全域で良質な家庭医療後期研修を提供する新しいプログラムを開始します。岡山大学と岡山家庭医療センターの教育リソースを合わせて、地域枠医学生や自治医大卒業生の義務年限中に後期研修プログラムに参加できる仕組みとなりました。

岡山県出身者で、岡山で家庭医療の研修を試みたい、岡山県南の医療施設での病院研修と岡山県北の家庭医療研修の両者を体験したいという方にはお勧めです。全体のコーディネートは岡山大学のGIMセンターと岡山家庭医療センターが責任をもって行います（プログラム責任者は岡山家庭医療センターの松下明です）。岡山県南部の教育リソースと岡山県北部の地域リソースをミックスして、後期研修医も指導医も地域の人たちも満足できる仕組みになると思います。

♣女性医師が働きやすいような工夫/岡山大学は女性医師支援でも長い取り組みがあり、復職支援や育児サポート（病児保育など）のノウハウをもっています。この領域に詳しい片岡仁美教授（地域医療人材育成学講座）とGIMセンターの伊野英男教授が全力でサポートします。

◎連絡先/岡山大学 医療共育統合開発センター GIMセンター部門 〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1

TEL：086-235-3835 FAX：086-235-6834 E-mail：GIMcenter@md.okayama-u.ac.jp

担当者：伊野 英男（GIMセンター）/松下 明（岡山家庭医療センター）

PG-58 岡山家庭医療センター／津山中央病院家庭医療後期研修プログラム

岡山家庭医療センターでは学会認定の3年間の家庭医療後期研修プログラムを平成18年から提供しています。第3次医療機関（津山中央病院）での内科・小児科研修、療養型病棟（日本原病院）での内科研修、さらに3つの診療所（奈義・津山・湯郷）での家庭医療専門研修と各科専門科外来研修を行います。

内科・小児科を中心に、整形外科・皮膚科・精神科・婦人科など他科にまたがる研修で幅の広い臨床能力を身に着けるとともに、患者中心の医療・家族志向のケア・地域包括医療といった心理社会的側面もしっかりと研修してもらうことで、自信を持って地域で活躍できる家庭医が数多く（約30名）誕生しています。

【家庭医療後期研修プログラムの特徴】

このプログラムの特徴は3つあります。

1) 地域における医療連携の中で、後期研修医が診療所（田舎型・郊外型・都市型）・療養型小病院・第三次医療機関（救命救急センター）を行ったり来たりして家庭医になっていくプロセスが挙げられます。卒後3年目は津山中央病院で内科6か月・小児科3ヶ月などをローテーションしながら週1日は診療所研修を継続し、卒後4年目は療養型病棟と診療所を中心に、5年目は診療所を中心に研修を行います。このプロセスの中で患者を紹介する側とされる側を同時に体験でき、地域のより良い医療連携を促す側面があります。

2) 生物心理社会アプローチの実践です。診療所での経験（心理社会的側面に配慮した外来／在宅診療・予防医学）と病院での経験（救急医療・高度医療）を、振り返り・学習・評価を通して同時進行で吸収していきます。

3) 家族全員がかりつけになりうる地域性を生かして、家庭医の醍醐味を3年間の継続性の中で実感してもらえらる点です。患者中心の医療や家族志向のケア、地域包括医療といった家庭医療の3本柱を言葉だけでなく、自らの診療を通して学びます。後期研修終了時には家族の木を常に意識した診療を行え、後輩に家族志向のケアを指導できるレベルを目標としています。

心やさしく、頼りになる家庭医になりたいあなた、一緒にそんな家庭医を目指しましょう。

◆女性医師が働きやすいような工夫／産休あけの女性医師が非常勤から開始し、時短常勤で勤務できる体制をとっています。核家族で子供の発熱時にはシフトを工夫して対応しています。

◎連絡先／奈義ファミリークリニック 〒708-1323 岡山県勝田郡奈義町豊沢292-1
TEL：0868-36-3012 FAX：0868-36-6435 E-mail：info@fpcokayama.com
担当者：松下 明、水島 弥生



PG-59 広島大学病院 家庭医療専門医養成コース

【特徴】

① 将来像を常に意識

3年間の家庭医療研修が修了した時点で身につけておきたい能力（アウトカム）を常に意識した研修を行ないます。アウトカムは学会が提示している研修目標を踏まえた上、それぞれの後期研修医のニーズに基づき設定します。ローテーションや学習会、指導体制は、アウトカムを達成できるよう組み立てられており、毎月の振り返り（1ヶ月間のできたこと、できなかったこと、感情、次の1ヶ月の目標を共有）を参考に随時修正を加えていきます。

② 都市型家庭医として

当プログラムでは、広島市規模の都市の診療所～中小病院で家庭医・病院総合医として活躍するために必要なスキルを獲得できるよう力をいれています。具体的には、経鼻内視鏡、各種エコー（腹部エコー、消化管エコー、頸動脈エコー、甲状腺エコーなど）、各種穿刺（膝関節穿刺、腹腔穿刺など）などのスキルが獲得できます。

③ 大学病院ならではの研修

紹介状を持たない初診患者さんや地域の開業医・基幹病院からの紹介患者さんの診療を行なうことで、風邪から不明熱まであらゆる病態の外来・入院診療を経験することができます。また、EBMや研究を重視した研修を行なうことができ、大学院に入学し研修を行ないつつ医学博士号を取得することも可能です。

④ 幅広い指導医陣と学習環境

小児科、心療内科、漢方、生活習慣病、老年医学、感染症、総合診療・家庭医療など様々な専門医が指導にあたります。地域のプライマリ・ケア医、家庭医主導の学習会も数多く用意されています。学会認定の家庭医療後期研修プログラムで実際にトレーニングを受けた家庭医療専門医がディレクターとして指導・メンタリングおよびプログラム運営に深く関わっていることも特徴の1つです。

【ローテーション】

家庭医・病院総合医など、後期研修医の将来像・ニーズに応じたローテーションを提案します。
〈家庭医コースのローテーション例〉1年目：大学病院の総合内科・総合診療科で総合診療研修。各種エコー、内視鏡のスキル獲得。
2年目：地域の中核病院での総合内科研修8か月、小児科研修4か月。
3年目：緩和ケア研修2か月。自分の出身町での診療所研修10か月。週1回整形外科研修。

☆詳しくはホームページ（「広島 総合診療」で検索）をご覧ください☆

◆女性医師が働きやすいような工夫／現在女性の後期研修医が活躍中であり、どの研修先も女性医師が働きやすい環境ですが、特に大学病院では産休・育休のみならず、子育て中の通常業務における配慮（病棟・当直免除など）が充実しています。「女性医師が働きやすい職場＝男性医師が働きやすい職場」の理念のもと、各自で仕事と生活のバランスをとりやすいシステムになっています。

◎連絡先／広島大学病院 総合内科・総合診療科 〒734-0037 広島県広島市南区霞1-2-3
TEL：082-257-5461 FAX：082-257-5462 E-mail：yokobayashiken@gmail.com 担当者：横林 賢一

PG-60 浜田市地域包括ケア家庭医療専門医コース

【医療機関の名称】 浜田市国民健康保険診療所連合体（浜田市地域医療対策課、弥栄診療所、波佐診療所、あさひ診療所、大麻診療所）

【地域の特徴】 浜田市は、人口約5万8千人、石見神楽や石州半紙などの伝統文化、海水浴場、スキー場、しまね海洋館アクアスなど豊かな自然を生かした観光資源を有し、県立大学、美術館をはじめとする教育文化施設が充実した、人と文化と自然の調和のとれた山陰地方の中核都市です。

【プログラムの概要】 診療所連合体と浜田医療センター（圏域の中核病院）を中心に研修を行います。診療所連合体の各診療所の特徴として、弥栄診療所は対象人口約1500人のへき地診療所で、診療圏内に高齢者福祉施設があり、保健活動が充実しています。波佐診療所は対象人口約800人のへき地診療所で、在宅医療に力を入れています。あさひ診療所は人口約3000人の旭町で、近隣に県立施設があり患者層が比較的若い診療所です。大麻診療所は、小規模の診療所です。浜田医療センターは浜田圏域の基幹病院（365床）で、地域がん診療連携拠点病院、臨床研修指定病院、地域医療支援病院に指定され、県西部地区で唯一の救急救命センター（3次）を備えています。

【プログラムの特徴】

- ・ 地域包括ケアを学び、実践できるようになる研修体制
- ・ 特色のある地域医療のフィールドを複数用意
- ・ 同一医療圏で1次から3次まで継続した医療を実践できる環境
- ・ 市民の健康増進への取り組みを含めた市の保健行政に参画
- ・ 公的医療機関だからこそ可能な医療保健福祉でのセーフティーネットの実践
- ・ しまね総合医・家庭医育成ネットワークと連携した、オール島根の研修体制
- ・ 個性豊かな5名の学会認定指導医

【募集要項】 ウェブサイトに掲載。

【ウェブサイトとブログ】

ウェブサイト「浜田市中山間地域包括ケア研修センター」 http://www.city.hamada.shimane.jp/etc/kokuho_clinics/index.html

ブログ「シロイルカ診療所のまめで生きよう」 http://blogs.yahoo.co.jp/shiroiruka_clinic_2009

♣女性医師が働きやすいような工夫／育児環境を考慮した勤務場所、勤務スケジュールの調整を行っております。

◎連絡先／浜田市国民健康保険波佐診療所 〒697-0211 島根県浜田市金城町波佐イ441-1

TEL：0855-44-0001 FAX：0855-44-0531 E-mail：houjou-nobumasa@city.hamada.shimane.jp

担当者：北條 宣政

PG-61 出雲家庭医療学センター後期研修プログラム

地域のニーズにこたえる家庭医の養成をめざして《ver2.0認定プログラム》



【研修アウトカム】

- 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医の取得
- 育てたい2つの医師像

①診療所で活躍する家庭医

- ・非選択的外来診療、適切な臓器専門医へのコンサルト
- ・急性期、終末期を含めたハイレベルな在宅医療
- ・ヘルスプロモーションに関する研究、プロジェクトワーク

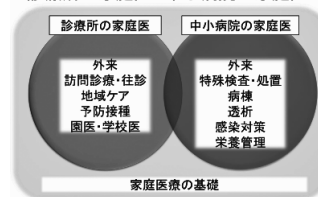
②中小規模病院の病棟も診る家庭医

- ・一般内科のスタンダードな医療の提供
- ・「病棟も診る家庭医」としてのアイデンティティの確立
- ・複合的問題を抱えた高齢者の包括的ケア、ターミナルケアも含めた在宅医療のバックアップ

【研修システム】

- ワンデイバック
- 家庭医療セミナー
- リサーチプロジェクト
- ポートフォリオ事例検討会
- レジデントデイ

診療所の家庭医と中小病院の家庭医



【主な研修施設】

- 出雲市民病院
 - ・臓器別でない急性期・亜急性期・慢性期にわたる多彩な疾患、健康問題への対応
 - ・家庭医療科外来にて患者中心の医療、家族志向型ケア、包括的継続的な医療の実践
 - ・維持透析のマネジメントに関わる
 - ・リハビリ専門医との連携によるリハ医療の学習と実践
- 大曲診療所
 - ・非選択的な外来、在宅診療、地域保健活動
 - ・家庭医を特徴づける能力の理解と実践
 - ・診療所における経営・マネジメントの知識の習得
- 大田市立病院
 - ・内科研修
 - ・小児科研修
- 島根県立中央病院
 - ・救急科研修

2014年4月より
Ver2.0の研修が
始まっています!!

—縁結びの地 出雲— 出雲家庭医療学センターホームページ URL <http://www.izumo-hp.com/katei/>

♣女性医師が働きやすいような工夫／

☆当直なし（ただし月2回程度土日の日直）

☆夜間休日呼出なし

☆病棟軽減勤務

☆子が3歳になるまで1日1時間短縮勤務

☆子育て中のお母さんを応援！ 全研修期間を通じてお子さんのワクチンスケジュールを指導医も一緒に組みます
（大曲診療所でワクチン接種可）

◎連絡先／出雲市民病院 〒693-0021 島根県出雲市塩冶町1536-1

TEL：0853-21-2722 FAX：0853-21-8101 E-mail：igakusei.icfm@izumo-hp.com

担当者：出雲家庭医療学センター事務局 坪内

PG-62 島根県立中央病院地域医療・家庭医療プログラム

島根県立中央病院の後期研修プログラムは、手厚い指導のもとで「充実した救命救急医療」、「地域医療の醍醐味」を体感できる内容です。離島やへき地を多く抱える島根県唯一の県立総合病院として、ドクターヘリ搬送、ドクターズカーが運用されている救命救急医療の現場において、適切な指導医と各科診療科待機によるバックアップ体制のもと、ウォークインから、3次救急まで、断らない救急救命センターを体験できます。

プログラムの最大の特徴は、地域医療研修にあります。ひとつの地域医療機関ではなく、地域医療をおこなう「ブロック制」での研修を行い、診療所 - 中小病院の診療・保健・福祉関連を同時期に業務の一環として研修が可能です。われわれの目指す医師はどのフィールドで活躍するかにかかわらず、地域住民に信頼され、そのニーズに応える保健・医療・福祉サービスを提供できる能力をもった医師を養成することにあり、ブロック制での研修はそれを達成するには良い方法であると考えます。また、テレビ会議システムでの画像、診療支援による「地域・へき地医療支援」を実習、会得することができます。

当院での研修を履修すれば、今後の医療のあるべき「姿」である「地域のニーズ、患者のニーズ」に立脚した病院や地域での診療を総合的に経験できます。

2012年3月には、シュミレーター室、シャワー、仮眠室、医療秘書室を備えた臨床研修棟が完成し、臨床経験5年未満の医師が、科の垣根なく過ごす新しい医局に個人用の机、書棚を並べ、日々、切磋琢磨しています。研修には医師のみならず、多くのコ・メディカルも積極的に協力しています。良い研修カリキュラムとの自信を持っています。やる気のある皆さんの応募をお待ちしています。

♣女性医師が働きやすいような工夫／女子更衣室、個人用ロッカー、女性専用のシャワー室、仮眠室あり（タオル常備 シーツ交換、清掃委託）。院内保育園（生後8週から6歳対象、基本年中無休、夜間保育、看護師配置あり）、産後の搾乳室を確保。性差なく、女性医師にも一定の役割が与えられる（WG、委員会など）産前産後休暇、育児休暇、妊娠障害（つわり）休暇、月経休暇、育児時間、看護休暇など取得可能。

※ブロック制：地域の中核となる病院と近隣の診療所との間において診療を相互に行う医師の相互支援システムであり、地域医療支援のシステムとして島根県では、平成7年4月から施行され、成果をあげている。

◎連絡先／島根県立中央病院 〒693-8555 島根県出雲市姫原四丁目1-1

TEL：0853-22-5111 FAX：0853-21-2975 E-mail：shokirin@spch.izumo.shimane.jp

担当者：医療局秘書 宍道 総合診療科部長 増野 純二

PG-63 徳山中央病院総合診療医養成プログラム

徳山中央病院は山口県東部に位置し、地域の基幹病院として507床を有しています。各種学会の専門医指定病院でもあり、医師数も140名を超えています（初期臨床研修医29名）。救急車は年間約4,500台を受け入れており、1次から3次まで広く受け入れる救急部門では、救命救急センター入院となる重症症例ばかりでなく、従来の専門科では対応困難な高齢者の呼吸不全や診断困難な不定愁訴の症例まで対応しています。現在救急科が中心となって研修医や若手医師とともに対応しているこのような診療内容は、まさに地域の総合診療として求められているものであり、来年度からは新たに総合診療部として対応を行っていくことになっています。

平成26年度中にはプライマリ・ケア連合学会に総合診療医育成プログラムの認定申請を行う予定です。基本的に3年間のプログラムで、最初の6か月は救急科で研修を行います。その後内科を6か月（原則として循環器内科で3か月、消化器内科で3か月）研修します。2年目は小児科で3か月研修した後、9か月を当院の総合診療部スタッフとして過ごします。総合診療部では、総合診療部スタッフ（総合内科医、救急医兼任）の指導のもと、初期臨床研修医と一緒に総合診療外来を行います。入院が必要になった場合には各診療科へ紹介を行います。振り分けが困難な症例は救急科あるいは総合診療部にて入院となります。3年目は一年間、訪問診療、地域包括ケアを主な目的とした総合診療研修となります。3年間のプログラムを修了した後は総合診療専門医の資格を取得し、ぜひ引き続き当院の総合診療部の中心的スタッフとして地域医療の充実と後進の育成に貢献していただきたいと思えます。

当院は平成26年度より「全国社会保険協会連合会」から新たな「地域医療機能推進機構（JCHO）」へ組織が切り替わりまします。JCHOでは地域医療機能を支えていくために総合診療医の育成が大きな目標のひとつとなっています。全国で約60の病院がJCHOに属することになりますが、JCHO全体で総合診療医の育成を進めていく予定ですので、合同カンファレンスや人事交流などを通じて、広い視野での研修を送ることが可能となります。ぜひ当院の総合診療医育成プログラムにご参加いただき、これからの総合診療領域をリードする医師を目指してください。

♣女性医師が働きやすいような工夫／産前産後休暇、育児休業、育児短時間勤務、育児休憩、女性医師が働きやすい柔軟な勤務環境に配慮しています。また、院内保育所を設置し（定員47名）、365日開設、週3回24時間保育、延長保育、病児・病後児保育を実施しています。

◎連絡先／徳山中央病院 〒745-8522 山口県周南市孝田町1-1

TEL：0834-28-4411 FAX：0834-29-2579 E-mail：tokuyb38@tokuchuhp.jp 担当者：福村 航

PG-64 長州総合医・家庭医養成プログラム

山口県では、へき地をはじめとした多くの地域で医師が不足していて、地域住民に対する医療提供体制の確保が急務です。こうした地域では様々な住民のニーズに対応し、入院・外来診療から在宅医療や緩和ケアまで、保健・福祉との密接な連携などにも幅広く対応できる「総合医」「家庭医」が望まれています。これらの医師の養成には、大病院の研修だけでは十分とは言えず、様々な問題を抱えるへき地住民の外来・入院診療、在宅医療、また保健・福祉も研修すべきです。一方、地域医療機関では、高度な診療技術に接する機会が少なく、病院医師として不安を感じることもあります。このプログラムは基幹病院と地域医療機関が相互に補い合うことにより、臓器や疾患を必ずしも限定しない、地域住民の様々なニーズに幅広く対応できる総合医・家庭医の養成を目標としています。



当院は、30年以上自治医科大学の卒業生の研修病院として、へき地医療拠点病院として、県内のへき地医療を担う人材育成を行ってきました。平成25年には、国の「専門医の在り方に関する検討会」において、「総合診療専門医」が19番目の基本専門領域として認められました。県内初となる当プログラムは、へき地医療を実際に経験した自治医大の卒業生を中心にへき地医療機関と連携して、これからの超高齢化社会に対応でき、ふるさと日本の地域医療を守る「総合診療医」を育てます。

取得可能な資格は、「家庭医療専門医」（日本プライマリ・ケア連合学会）です。以下の方にオススメです。○家庭やその地域を支える、患者さんに寄り添う医療をやってみたい ○小児から高齢者まで幅広く対応できる診療能力を身につけたい ○初期臨床研修後、まだ専門診療科が決まっていない ○専門医を目指しているが、もう少し幅広くやってみたい ○外来診療、診断学を学びたい ○短期間だけでもへき地医療（離島医療など）をやってみたい ○開業を考えているが、幅広く総合的に研修したい ○行政医を考えているが、もう少し臨床を経験したい ○「赤ひげ先生」「Dr. コトー」にあこがれている。

現在、へき地医療で直面している課題は、間違いなく近い将来日本全体で課題となります。当プログラムのもうひとつの大きな特徴は、行政（県、市町村）とも連携しており、行政と一緒に課題に取り組むこと可能です。是非ふるさと日本の地域医療について一緒に考え、一緒に取り組んでみませんか？

♣女性医師が働きやすいような工夫／当プログラムは、行政（県、市町村）と連携しており、へき地勤務の際は、公務員として勤務していただきますので様々なサポートがあります。また、指導医にへき地医療を経験した女性医師（自治医大卒）も在籍しておりますので、お気軽にご相談ください。

◎連絡先／山口県立総合医療センター 〒747-8511 山口県防府市大崎77
TEL：0835-22-4411 FAX：0835-22-5332 E-mail：masa.harada@ymghp.jp
担当者：原田 昌範（プログラム責任者） 三戸 雅子（事務局担当）

PG-65 大田市立病院総合診療医・家庭医育成プログラム

大田市立病院は、世界遺産石見銀山や国立公園三瓶山など歴史と豊かな自然に囲まれた大田市にある、圏域人口約6万人の中核となる医療機関です。2011年より島根大学医学部のサテライトキャンパスとして院内に大田総合医育成センターが開設され、総合的な診療のできる医師を育てる環境の整備が進められています。

【家庭医療後期研修プログラム】（Ver.2.0認定済）

- ・大学医学部の持つ専門性と一般病院の持つ汎用的な機能の両面を学べる場を設け、地域とも密接な関わりを維持しながら、総合的な診療のできる医師を育てていくとするプログラムです。
- ・1年目は大田市立病院内で外科を含めた総合診療専門研修Ⅱ、内科・小児科研修を、2年目は島根大学医学部附属病院における救急科研修、協力施設における家庭医療研修を主とした総合診療専門研修Ⅰを、3年目は領域別研修と研修者が希望する追加研修を行います。

【病院総合医後期研修プログラム】

- ・総合内科、総合外科別に専門研修を実施します。大田総合医育成センターは島根大学医学部附属病院の関連施設であり、当センターで経験した症例は、全ての診療科認定医、専門医資格試験のための症例として認定され、各「専門医資格」の早期取得が可能となります。また大学関連施設であることから「医学博士号」取得の道も開かれています。
- ・研修期間中、希望に応じて国内留学・海外留学の機会があります。

◎連絡先／大田市立病院・島根大学医学部大田総合医育成センター 〒694-0063 島根県大田市大田町吉永1428番地3
TEL：0854-82-0330 FAX：0854-84-7749 E-mail：j-wada@ohda-hp.ohda.shimane.jp 担当者：和田 二郎

しまねで育てる
いま未来の担い手が不足とされています。そして、そこには地域医療の未来を真剣に思い、伝える人が必要とされています。その現場で、伝えたい思い、技術、高い研鑽を身につけていませんか？

教員・研修医募集
大田総合医育成プロジェクト
ohda sougou ikaisei project
島根大学医学部・島根県大田市・大田市立病院の連携で生まれた新たなプロジェクト「総合医」
「総合医を持った専門医」の育成にあたります。
島根大学医学部附属病院 大田総合医育成センター 〒694-0063 島根県大田市大田町吉永1428番地3
TEL: 0854-82-0330 FAX: 0854-84-7749 E-mail: j-wada@ohda-hp.ohda.shimane.jp

しまねで育つ
いま未来の担い手が不足とされています。そして、そこには地域医療の未来を真剣に思い、伝える人が必要とされています。その現場で、伝えたい思い、技術、高い研鑽を身につけていませんか？

PG-66 十全総合病院家庭医養成プログラム

対象：初期研修2年終了した医師及び初期研修義務化以前卒業医師（年齢、経歴不問）

研修期間：3年間

募集人数：2名×3年間

特徴：

①救急研修3か月間は大都会東京で行うことも可能

日赤医療センター渋谷救急センターと提携しており、長い医師人生の中で3か月間必死に救急と向き合ってみませんか？ 経済的、精神的支援を十分させて頂きます。当院の救急車受入れ台数は1300件/年程度で、当院での救急研修も可能です。

②福祉グループを使つての研修

当院は多くの福祉施設、病院をグループとして持っています。これらを活用して十分な研修が出来ます。

③女性医師に対する配慮

十全総合病院医局では女性医師のみの部屋を用意しています。現在女性医師3名が働いています。産休、育休にも配慮。病院内に育児施設を用意しています。

当院は「十全医療・福祉グループ」の中で総本山ともいべき総合病院です。「十全医療・福祉グループ」は350床の総合病院（十全総合病院）、306床の精神科病院（十全第二病院）、100床の理学療法士、作業療法士、言語療法士の養成学校（愛媛十全医療学院）附属病院と十全看護専門学校（学生数30名×3年）、愛媛十全医療学院（学生数100名×3年）、3つの精神障害者支援施設（入所者49名）、2つの身体障害者療護施設（100名）3つの介護老人福祉施設（200名）、2つの介護老人保健施設（200名）3つの総合福祉館（89名）からなります。これらの施設が連携を取りながら、家庭医を養成します。また、市の福祉部、保健所、地域診療所、地域の他の病院などとも緊密に連絡が取れていて家庭医養成のプログラムとして充実されています。また、小児科研修は住友別子病院で行い、救急研修については東京の日本赤十字社医療センター（渋谷区）で3か月間十分な研修ができます。

総合診療専門研修Ⅰは加藤正隆医師（指導医）により充実した研修が受けれます。

待遇：常勤医師と同じ

研修内容：内科・外科・脳外科・麻酔科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・眼科・形成外科・放射線科・救急など。実際の研修内容は各研修医と相談のうえ決定（オーダーメイド研修）

◆女性医師が働きやすいような工夫／十全総合病院医局では女性医師のみの部屋を用意しています。現在女性医師3名が働いています。産休、育休にも配慮。病院内に育児施設を用意しています。

◎連絡先／十全総合病院 〒792-8586 愛媛県新居浜市北新町1番5号

TEL：0897-33-1818 FAX：0897-37-2124 E-mail：takobaya@shikoku..ne.jp 担当者：古林 太加志

PG-67 高知県立病院群 総合医・家庭医養成後期研修プログラム（高知県立幡多けんみん病院）

高知県の幡多地域は四国の西南部に位置し、日本最後の清流として知られる四万十川や、台風の時におなじみの四国最南端の足摺岬、サーフィンのメッカである入野海岸や平野海岸、日本有数のダイビングスポットである柏島や沖の島などの素晴らしい自然とその美しい四季折々の風景を満喫できる地域です。また新鮮な魚介類を中心とした食材による恵まれた食生活を楽しむ事もできます。

幡多けんみん病院は幡多地域を中心とした約10万人の方々の健康を支える医療機関です。地域の医療機関と協力しながら可能な限り地域内で完結する医療を目指しており、一次～三次までの幅広い症例に対応できる能力を身につけることができます。また年間救急患者数は約15000件、うち救急車での搬送は約2500件と多くの救急症例を経験することも可能です。

豊かな自然のおかげか、患者さんやそのご家族、そしてスタッフを初めとした地域の方々は穏やかで、ほのほのとした環境の中、色々な人々と触れ合いながら、充実した研修を行なうことができます。

プログラムの特徴

1 高知県全体のフィールドを満喫できる研修

高知県の文化や習慣、環境を満喫しつつ、多様な規模の研修医療機関からニーズに合わせたプログラム構成が可能で

2 円滑な地域医療連携を通して優れた総合診療専門研修ができる

病棟から外来、そして在宅へと複数の医療機関の円滑な地域医療連携を通して総合診療専門医に必要とされるコンピテンシーの涵養が可能です

3 充実した研修サポート

県立病院群で行なう「総合診療専門研修Ⅱ」では学会認定指導医がマンツーマンで研修指導にあたります。協力医療機関で行なう「総合診療専門研修Ⅰ」では学会認定指導医による指導もしくは週一回の遠隔テレビ会議システムを活用しての指導を行ないます。

◆女性医師が働きやすいような工夫／各種女性の体調に応じての休暇制度があります。また過去に複数の女性医師の出産を経験しており、産休や育休、出産後の勤務についても当直の免除や、適宜授乳時間の設定、時短勤務の採用などライフスタイルに合わせた臨機応変な対応が可能です。

◎連絡先／高知県立幡多けんみん病院 〒788-0785 高知県宿毛市山奈町芳奈3番地1

TEL：0880-66-2222 FAX：0880-66-2111 E-mail：620108@ken.pref.kochi.lg.jp

担当者：総務課 上熊須 英樹（かみくます）



PG-68 高知県立病院群総合医・家庭医養成後期研修プログラム（高知県立あき総合病院バージョン）

臨床力アップを目指す若い医師の皆さんへ

基礎的な臨床力をつけるために、マニュアルや決まった手順で検査や診察を学ぶことは大変重要なことです。また、大きな病院で症例を積み重ね、専門医としての経験値をあげ、キャリアアップしていくことが大切なのは異論がありません。

では、社会人として伸びるために最も重要なことはなんでしょうか？私は、「人がやらないことをみずから率先してやる」、「今、目の前にあることに真剣に取り組む」、そういった姿勢を持つことだと思っています。大病院であろうが、診療所であろうが、どんな職場であろうと関係ありません。こういった姿勢はどの職場でも通用する基本だと思います。そしてもう一つ、医療人としてどうしても備えてもらいたいことがあります。それは、「この人の笑顔をみたい」、「患者さんの体調、気持ち、生活や環境をどうしたらよい方向の持って行けるのだろう」と思いやる「心」です。青臭いことと言われるかもしれませんが、医療の原点はまさにそこに始まると思います。

プロとして仕事をする以上、給料に見合う仕事をするのは当然です。しかしモチベーションなくしては良い仕事はできないし、長続きしない。やっつけて充実感がなければ自分が嫌になってきて、気持ちが路頭に迷ってしまいます。皆さんにはぜひ、楽しく仕事をしてもらいたい。そのためのお手伝いができればと思っています。一緒にチャレンジしていきましょう。

女性医師は今後ますます増えてきます。今後、女性医師が活躍する職場づくりが不可欠なのです。まずは田舎で、女性医師が安心して生活するための環境づくりをします。医師官舎は病院新築に先立って作られており、すべて新設できわめて快適な住環境です。妊娠、出産に伴う休暇はもちろん、日常業務での配慮や夜勤についても体調などを考慮して、私が責任を持って対応していきます。安心してきていただければと思います。

なお、研修プログラムの具体的な内容については「高知県立病院群総合医・家庭医養成後期研修プログラム」で検索していただくPDFで閲覧できます。

◎連絡先／高知県立あき総合病院 〒784-0027 高知県安芸市宝永町3-33
TEL：0887-34-3111 FAX：0887-34-2687
E-mail：620103@ken.pref.kochi.lg.jp 担当者：的場、近藤

PG-69 医療福祉生協連 家庭医療学開発センター 家庭医療学レジデンシーせとうち

「そろそろ地元に戻りたい、家庭医になりたい。でも、地元で後期研修できるところが分からない。」という中四国地方出身のあなたに朗報です。

レジデンシーせとうちでは文字通り瀬戸内海に面する岡山県、香川県、愛媛県に研修施設を持ち家庭医療後期研修を提供しています。今後は瀬戸内に限定せず中四国の各県で協力頂ける施設と提携を結んでいく予定です。

地理的な不利を逆に、ふりかえりのために定期的集まる機会を設けており、レジデントにフィードバックをしながらポートフォリオ作成を支援します。毎回その場で指導医からのレクチャーが行われています。現在レジデンシーせとうち所属のレジデントは2名、その他に中四国地方の別のレジデントもこのふりかえりの会に参加して学びを共有しています。

地方都市で求められる小病院の家庭医養成にも、診療所基盤の家庭医養成にも応えます。

さらにハードな研修を熱望される方向けに、虎の穴を自称するとある教育診療所を準備しています。伊達直人な家庭医を目指すタフなあなたにお奨めです。

拠点となる診療所・病院を大事にしながら、不足分を周りの指導医陣や施設、外部ファカルティで補完するプログラムです。地元が中四国地方の方は、研修を諦める前に一度声を掛けていただけたらと思います。

♣女性医師が働きやすいような工夫／院内保育、病児保育を施設内に準備しています。ライフスタイル、家庭の事情へは充分に配慮して柔軟に対応しています。

◎連絡先／愛媛生協病院 〒791-1102 愛媛県松山市来住町1091-1
TEL：089-976-7001 FAX：089-976-7029 E-mail：hotaka3dr@yahoo.co.jp 担当者：原 穂高

PG-70 沖縄県立中部病院プライマリ・ケア医コース（島医者養成コース）・家庭医療後期研修プログラム「病院総合医」コース

1) 沖縄県立中部病院プライマリ・ケア医コース（島医者養成コース）

後期研修は3年間のプログラムです。後期研修1年目では、急性期医療はもちろん、近接的ケア、継続的ケア、包括的ケア、保健や介護関連の活動、家族志向・地域志向のケアを意識し修得します。後期研修2年目では、離島診療所での単独診療を行う「島医者」を目指します。医療設備の限られた離島では、問診と身体所見を最重視しながら、超急性から慢性、そして乳児からお年寄りまで、と幅広い領域の診察をこなしていく必要があります。「地域の数だけ地域医療はある」と言われていますが、ここでの研修では小手先の知識ではなく、地域に出ることにより病院研修だけでは得られない、生涯有効な知恵を会得することができます。後期研修3年目以降は、離島診療所での経験を重ねるか、当院での研修を行うこととなります。密度の高い当院での研修と離島医療の素晴らしさの両方を実践できる研修プログラムです。

2) 家庭医療後期研修プログラム「病院総合医」コース

近年、中小規模の病院における総合診療のニーズが高まっています。地域の中核病院の中で総合診療を展開するためには、救急診療から在宅での看取りまで、幅広い疾患層をカバーしつつ、専門性の高いものについては的確にトリアージする能力が必要です。本プログラムでは、地域に密着しながら病院総合医として活躍できる人材を育成することを目標とします。後期研修1年目では、整形外科、小児科、救急など専科の修得を主に行い、後期研修2年目では、離島診療所での研修と県立北部病院、宮古病院、八重山病院といった地域基幹病院で総合診療を学びます。後期研修3年目以降は、地域基幹病院でさらに実践を重ね、後進の指導もできる総合医としての役割を担います。

♣女性医師が働きやすいような工夫／厳しい研修病院のイメージがあると思いますが、研修中に出産を行った女性医師や出産経験のある指導医がいます。病棟中心ではなく、外来診療を中心としたプログラムも可能です。ご相談下さい。

◎連絡先／沖縄県立中部病院 〒904-2293 沖縄県うるま市宮里281 沖縄県立中部病院
TEL：098-973-4111 FAX：098-974-5165 E-mail：motomura_kazuhisa@hosp.pref.okinawa.jp
担当者：本村 和久

PG-71 飯塚・穎田家庭医療プログラム／飯塚病院総合診療科 病院総合医後期研修コース

【飯塚・穎田家庭医療プログラム】地域基幹病院である飯塚病院（1116床）と、7km離れた地域医療最前線にある穎田病院（96床）での研修により、ER・病棟総合診療、各科ローテーション（飯塚病院）、小病院病棟診療・小病院継続外来・在宅医療での様々なフィールドを経験し、同じ地域で、同じ患者様やご家族様の継続診療が可能です。指導内容は、ピッツバーグ大学メディカルセンターとの教育提携により開発されたカリキュラムを基本とし、日々の継続外来、救急外来、病棟、在宅医療の各現場で、指導医のコメントを得ます。半年間の飯塚病院総合診療科で内科的総合力をスキルアップします。昨年からはスタッフ、レジデントは選抜で1週間のピッツバーグ大学での研修を開始しました。年数回のピッツバーグ指導医招聘プログラムでは、指導医のもとで英語プレゼンテーションを学び、レクチャーから最新のトピックを学びます。毎朝のカンファレンスでは、EBM、症例検討をし、月1度のレジデントデーでは、ポートフォリオ作成を学びます。臨床研究支援、専門医試験模試など試験対策もします。ママさんレジデントが誕生し、家庭医療専門医試験合格率100%（4/4名）です。若手医師部会、冬期セミナーへの参加も盛んで日本のプライマリ・ケアを盛り上げています。一緒に家庭医医療を学びましょう!!

♣女性医師が働きやすいような工夫／自分のペースに合わせて育休中にも週1コマからの復帰が可能です。短時間正社員制度があり、育休終了後も柔軟に働く環境があります。

【飯塚病院総合診療科 病院総合医後期研修コース】

《目的》急性期総合病院で活躍出来る病院総合医の育成

《対象》1. 病院総合医を目指す若手医師

2. 将来は地域医療を目指しており、総合内科専門医相当の急性期病院総合内科の経験を求む医師

《期間》原則3年間

《コース内容》1年を3ヶ月毎の4クールに分け、ローテーションは1クール毎とします。総合診療科ローテーションでは、総合内科病棟診療をホスピタリストとしてリードするのに必要な診断・治療学、レジデント教育、組織改善運動などに習熟できます。重症チームローテーションでは、敗血症始め、内科集中治療に習熟できます。ERローテーションがあり、救命センターでの急性期鑑別・初期対応に習熟できます。総合診療科外来で診断を主とした外来スキルアップを行う事もできます。スタッフ、レジデントは選抜で1週間のピッツバーグ大学での研修が昨年からは開始されました。振るってご応募下さい!!

◎連絡先／麻生飯塚病院 総合診療科 〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町3-83 TEL：0948-22-3800
E-mail：kentaro.kinjo@gmail.com 担当者：金城 謙太郎

PG-72 沖縄県立宮古病院 日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療後期研修プログラム「うぶらうさぎ」

「うぶらうさぎ」とは、宮古島の方言で「金星」という名前です。沖縄県立宮古病院の家庭医療後期研修を修了する研修医らひとりひとりが、金星・「うぶらうさぎ」のように輝く星となり、地域医療の担い手として、地域のヘルスケアの推進者として、日本の各地域に巣立って行って欲しいと願っております。その願いを「うぶらうさぎ」という名に込めました。

総合病院（一般病床232、精神科病床45）である沖縄県立宮古病院は救急医療を始め、結核・感染症、災害拠点、各科基本専門科医療の提供、精神医療、さらには周産期医療など地域支援病院の性格を強く備え、離島宮古群島における医療の中心的役割を担っています。また、地区医師会や歯科医師会、それに薬剤師会、さらには個人開業医による訪問診療、私立病院、福祉保健所、行政、介護福祉施設、在宅訪問看護ステーションなどと、密接に連絡を取り合い、医療・保健・福祉の役割分担を行って日々活動をしています。

当院家庭医療専門医後期研修プログラムの特徴は宮古島内で3年間を完結できることにあります。総合診療専門研修Ⅰは専門医・指導医が1名在籍する下地診療所で研修可能です。総合診療専門研修Ⅱは当院で行うことになっています。当院には認定医・指導医1名、専門医・指導医1名が在籍しています。また領域別研修（内科、小児科、救急科、一般外科、整形外科、精神科・心療内科、産婦人科、泌尿器科、眼科、リハビリテーション科、脳外科、麻酔科、放射線科、皮膚科、耳鼻咽喉科）も当院で研修可能となっています。また訪問診療を主に活動してしるドクターゴン診療所、多良間島にある当院附属多良間診療所、沖縄島の々離島診療所との今後の家庭医療後期研修連携も視野に入れていきます。

♣女性医師が働きやすいような工夫／女性控室の設置、宮古島内女性医師同士間の定期的交流会（ここでは模合と呼んでいる）が開催、職場には女性相談室を設け産婦人科医師が週1回外来を開いていてウーマンズ・ヘルスの相談に乗っています。また院内には産業医中心に衛生委員会も開催されています。

◎連絡先／沖縄県立宮古病院 〒906-0013 沖縄県宮古島市平良字下里427番地の1
TEL：0980-72-3151 FAX：0980-74-3105 E-mail：motonaga_eiji@hosp.pref.okinawa.jp
担当者：本永 英治

PG-73 鹿児島民医連 家庭医療学後期研修プログラム

～地理的な離島はあっても人の生命に離島があってはならない～

本プログラムでは地域に密着した医療を実践しつつ、家庭医としての能力・力量を高めることを目標としております。病院や診療所、施設や地域、都市部や離島など、豊富なフィールドを有し、Common disease はもちろん、救急医療、小児疾患、外傷などの初期対応を経験していきます。また在宅医療や介護福祉の連携、社会保障制度などを実践的に学びます。

特にその中でも特徴的なのは、「離島診療所を担える力量を身に付ける」ことを目指している独自プログラム「Dr. リトープログラム」と連携している点です。眼科を除く専門分野の開業がない離島にあって、内科・小児科のみならず、皮膚科、整形外科、耳鼻科などの広範囲の分野での地域のニーズにも対応し、19床の有床診療所でありながら一定の重症疾患管理まで行っています。この様な離島の診療所を担える力量を身につけることで、人権を尊重し、安全で信頼される医療と平和で健康な社会作りを、地域の人々と共にすすめることのできる能力を身に付けることが出来ます。

日本プライマリ・ケア連合学会認定のプログラムで、家庭医療専門医の指導のもと、豊富なフィールドの中で、家庭医と病院総合医、両方の医療を実践しながら、家庭医療専門医（総合診療専門医）取得を目指します。

【研修プログラム例】原則3年

- 1年目 基幹病院9ヶ月（総合内科）＋救急3ヶ月
- 2年目 小児科3ヶ月＋選択3ヶ月＋中規模病院6ヶ月
- 3年目 離島診療所12ヶ月

離島でも安心の指導・援助体制

- ・所長を指導責任者として、日常的には支援医師による個別指導を受けられる。
- ・画像相談は、奄美中央病院や鹿児島生協病院で相談が可能。
- ・鹿児島生協病院の各専門科にホットラインがあり、直接相談が可能。
- ・管理運営などの管理業務に関しては、本部事務に相談が可能。
- ・Web会議が準備され、移動の負担軽減を図っている。

♣女性医師が働きやすいような工夫／女性医師が働きやすい職場作りを進めることが、男性医師や他職種にとっても働きやすい職場となることを基本として、個別の状況に応じた対応を行い、できるだけ働きやすい環境となるように取り組んでいます。

- ・長時間労働を抑制し、仕事と生活の調和を図ります。
- ・育児休業、子育て時の短時間勤務などを職場全体で意思統一しています。
- ・離職医師の復帰を支える診療体制や研修を整えます。

◎連絡先／総合病院 鹿児島生協病院 〒891-0141 鹿児島県鹿児島市谷山中央5丁目4番12号
TEL：099-266-1531 FAX：099-266-1530 E-mail：info@kagoshima-min.jp 担当者：中村 太一